
アイフレイル(加齢に伴う目の機能低下)に関する意識調査 報告書

2024 年 7 月

公益社団法人 日本眼科医会(日本眼科啓発会議)

<目次>

1. 調査概要.....	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査設計	1
1.3 調査実施時期.....	1
1.4 調査内容	1
1.5 基本属性	2
2. 調査結果のまとめ.....	3
2.1 目の健康の状態.....	3
2.2 目の病気に関する認知.....	5
2.3 眼底検査の認知.....	7
2.4 アイフレイルの認知	8
2.5 眼底検査に関するテレビ CM の認知	9
3. 調査結果詳細	10
3.1 目の健康の状態.....	10
(1)Q1 現在健康面で不自由を感じていること.....	10
(2)Q2 普段から健康面で気にかけていること	12
(3)Q3 目について気になっていること.....	16
(4)Q4 最近目の検査を受けた時期	18
(5)Q4-1 検査受診理由	22
(6)Q5 かかりつけ眼科の有無.....	25
(7)Q6 眼鏡・コンタクトレンズの使用有無	28
3.2 目の病気に関する認知.....	30
(1)Q7 目の病気の認知.....	30
(2)Q8 説明できる目の病気.....	32
(3)Q9 緑内障について知っていること	34
(4)Q10 緑内障の診断経験.....	36
(5)Q10-1 緑内障診断時の症状有無	37
(6)Q10-2 症状を感じていなくても眼科を受診した理由	39
(7)Q10-3 緑内障の診断を受けた時期の認識	41

3. 3 眼底検査に関する認知.....	42
(1) Q11 眼底検査の受診経験	42
(2) Q12 眼底検査を受けた場所.....	43
(3) Q13 眼底検査に関する広告媒体の認知状況.....	44
(4) Q14 眼底検査の認知内容	45
(5) Q15 眼底検査の受診意向	46
3. 4 アイフレイルの認知	47
(1) Q16 フレイルの認知	47
(2) Q17 アイフレイルの認知	50
(3) Q18 アイフレイルの意味の認知	53
(4) Q19 アイフレイルチェックシートの認知	54
(5) Q20 アイフレイルのセルフチェックの意向	55
(6) Q21 目の検査や治療に関する考え	56
(7) Q21-1 すぐに目の検査や治療を受けない理由	57
(8) Q22 アイフレイルの検査受診意向.....	59
3. 5 眼底検査に関するテレビ CM の認知	63
(1) Q23 眼底検査に関するテレビ CM の認知	63
(2) Q24 テレビ CM 視聴後の目の検診の受診意向	64
4. 資料(調査票)	66

1. 調査概要

1.1 調査の目的

アイフレイルの普及啓発活動に必要な広報活動の方針、対象、訴求内容などの戦略を策定するため、日本人の目の健康に対する意識、関心度、目の病気の知識度、不安、アイフレイルの概念の受容度、共感ポイントなどを把握する調査を実施する。

1.2 調査設計

調査対象者	:「インテージ・ネットモニター」より抽出
調査手法	:インターネット調査
対象者条件	:40～89歳の男女。年代、性別、都道府県について、人口構成に準じて サンプル設計
対象者数	:有効回収数 12,491 サンプル
調査依頼数	:104,374 サンプル(有効回収率 12.0%)

1.3 調査実施時期

2024年6月24日(月)～6月28日(金)

1.4 調査内容

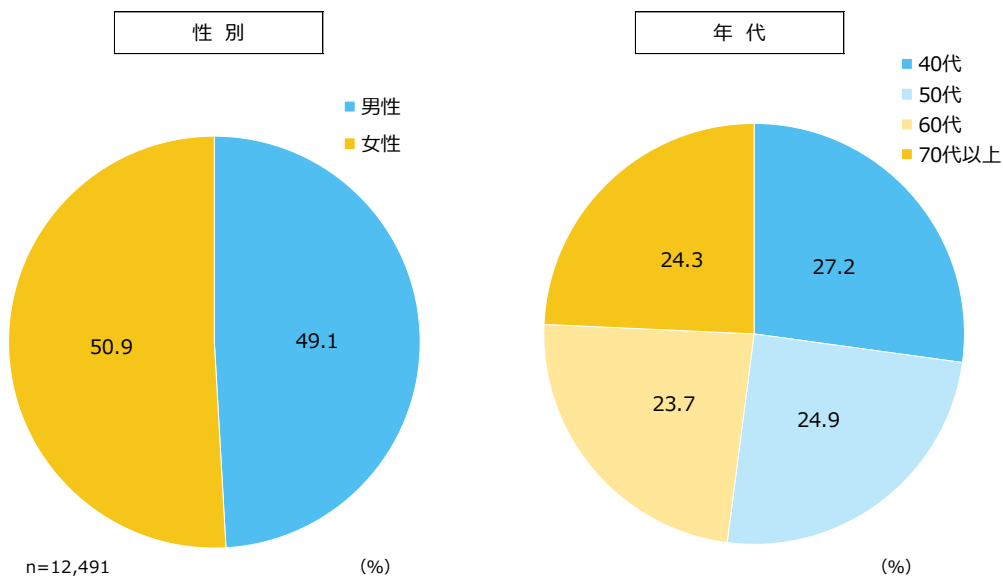
- ◇ 目の健康の状態
- ◇ 目の病気に関する認知
- ◇ アイフレイルの認知
- ◇ 眼底検査に関する認知
- ◇ 眼底検査に関するテレビCMの認知 等

【調査報告書の見方】

- 調査結果の数値は、回答率(%:パーセント)で表示している。母数はその質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はnで示している。
- %の数値は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示している。このため各回答の数値の合計が100%とならない場合がある。
- 回答は、単数回答(回答は1つ)の場合と複数回答(回答はいくつでも)の場合がある。複数回答の間の場合には、その回答割合(%)の合計は100%を超えることがある。
- TOTALと比較して統計的に有意な差(有意水準5%)がある結果を中心にコメントを記載している。

1.5 基本属性

- 性別: 男性 50.9%、女性 49.1%
- 年代: 40代 27.2%、50代 24.9%、60代 23.7%、70代以上 24.3%
- 地域: 下表のとおり



居住都道府県									
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
4.3	1.1	1.0	1.8	0.9	0.9	1.5	2.4	1.6	1.6
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
5.7	4.9	10.1	7.1	1.8	0.9	1.0	0.7	0.7	1.6
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1.6	2.9	5.6	1.4	1.1	2.0	6.7	4.3	1.2	0.8
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.5	0.7	1.5	2.2	1.1	0.7	0.8	1.1	0.7	3.9
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	n=12,491		
0.7	1.1	1.4	0.9	0.9	1.3	1.1			

2. 調査結果のまとめ

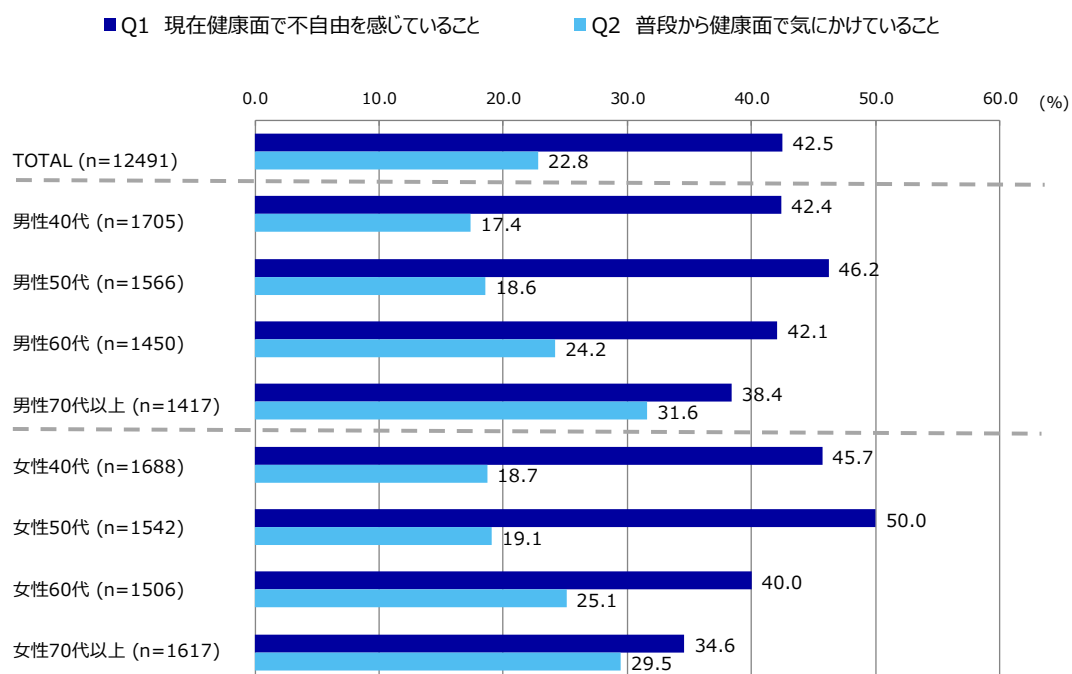
2.1 目の健康の状態

■現在の目の健康状態(参照:P15)

以下は「目(視覚)に関すること」について、現在不自由を感じていること、普段から健康面で気にかけていることの2つを比較したグラフである。

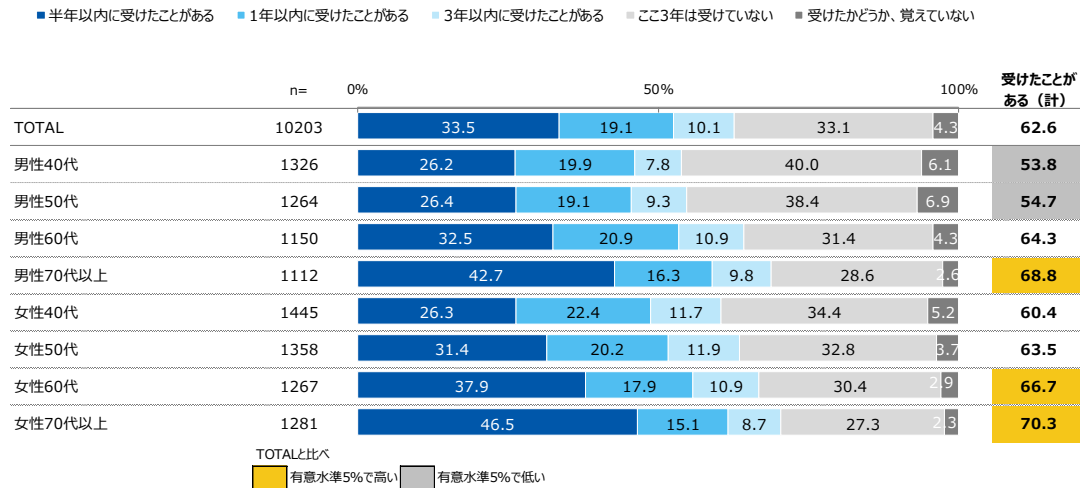
歯や耳(聴覚)、足腰(歩行や動作に関すること)等の7項目のうち、現在不自由を感じている割合が最も高いのが「目(視覚)に関すること」である。しかし、不自由を感じているにも関わらず、普段から健康面で気にかけている割合は22.8%とギャップが大きいのが「目(視覚)」の特徴である。

男女ともに50代がそのギャップは最も大きく、70代になるとギャップが小さくなる傾向にある。



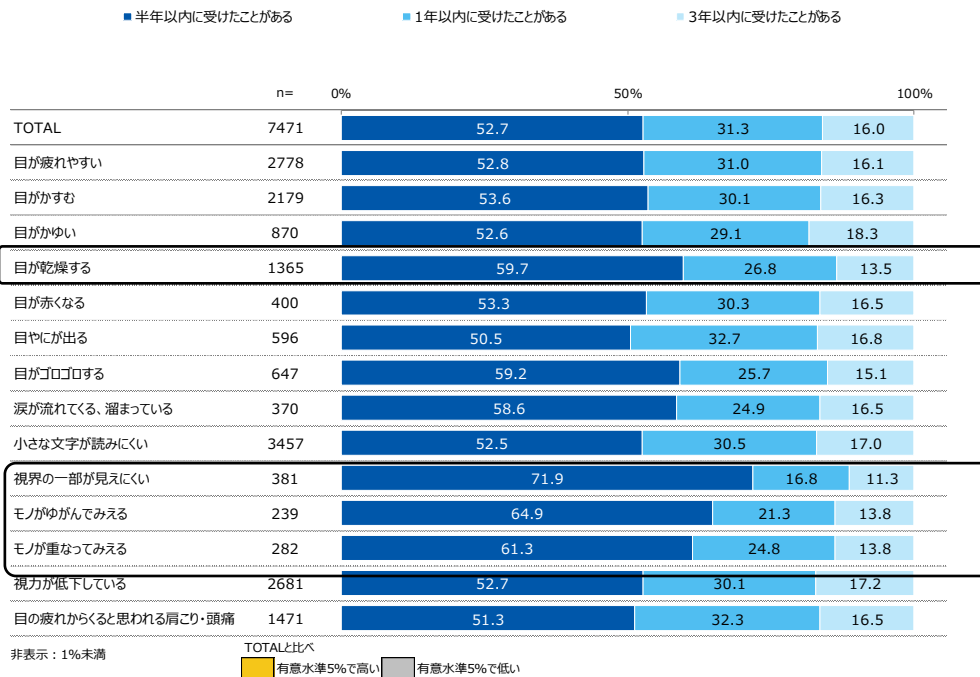
■目について気になっていることと、目の検査受診率(参照:P18~21)

現在目について何らかの気になっていること(自覚症状)があると回答した人(全体の 81.7%)について、性・年代別に目の検査の受診率を見たのが以下のグラフである。症状があっても 37.4%は3年以内に受診しておらず、特に若い年代の方が低い受診率となっている。



3年以内に目の検査を受けた人について、その理由別に見たのが以下のグラフである。

「目が乾燥する」のほか、「視界の一部が見えにくい」、「モノがゆがんでみえる」、「モノが重なって見える」といった症状を感じている人は比較的最近に検査を受けている割合が高く、受診につながりやすい自覚症状であると考えられる。



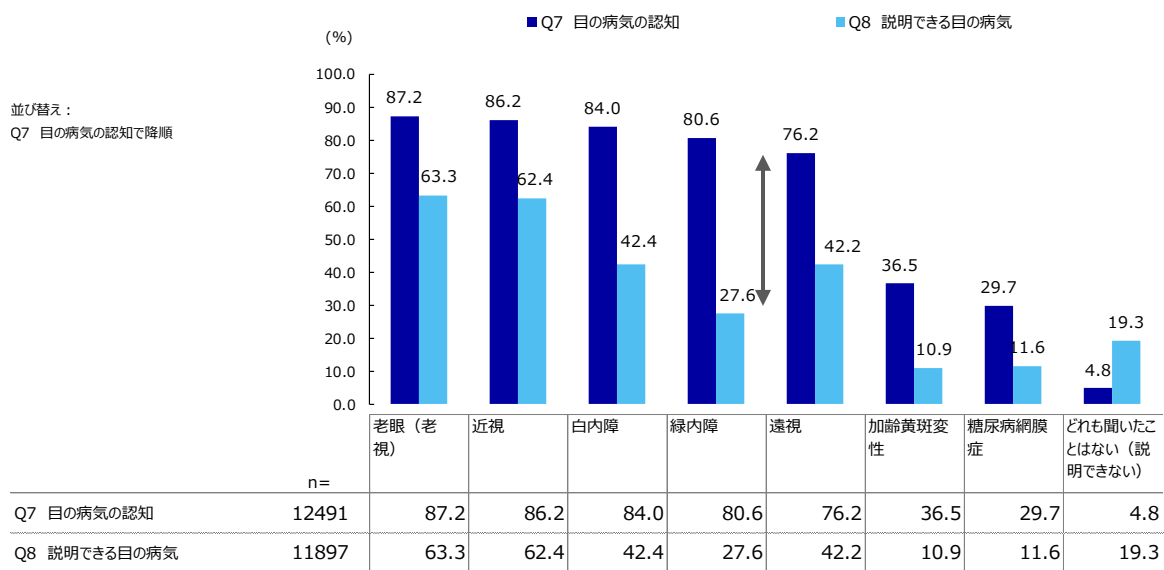
※「その他」、「わからない・覚えていない」は非表示としている。

2. 2 目の病気に関する認知

■目の病気の認知(参照:P30～33)

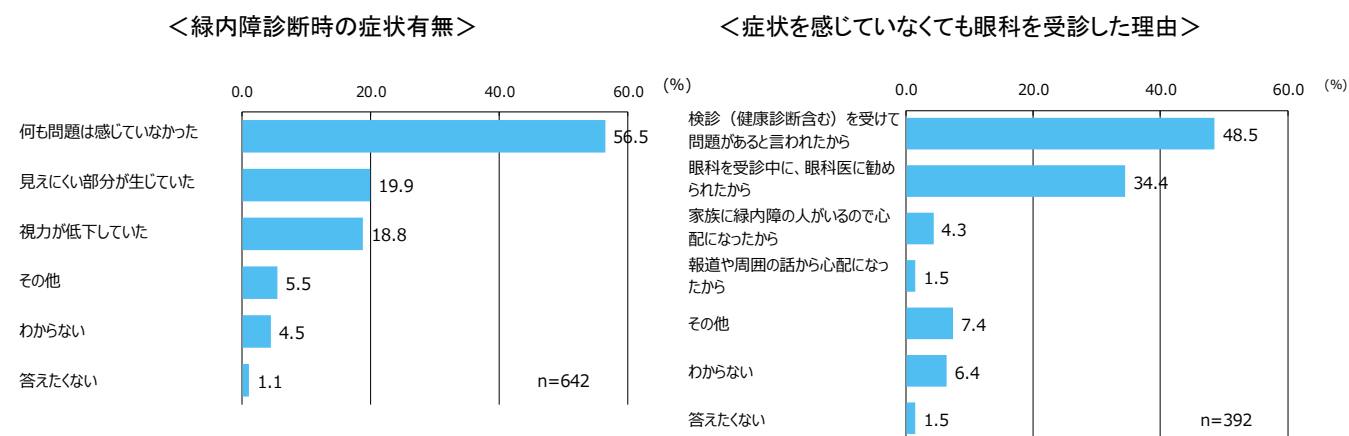
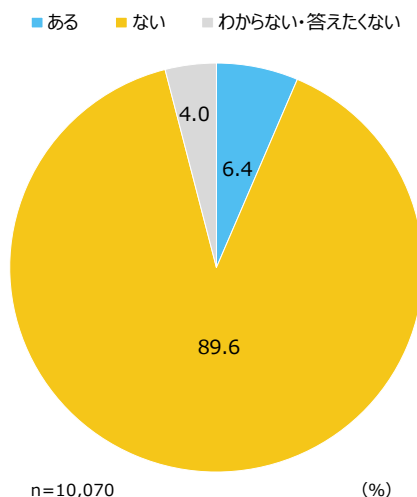
聞いたことがある目の病気と説明できる目の病気を比較したのが以下のグラフである。最もギャップがあるのが「緑内障」で、8割以上の人が認知しているものの、「説明できる」のは認知者の中でも27.6%にとどまっている。「白内障」も同様に8割以上の認知があるが、「説明できる」は「緑内障」より高いものの、半数程度である。

また、「加齢黄斑変性」、「糖尿病網膜症」は他の病気に比べて認知度が低い。



■緑内障の診断経験(参照:P36～40)

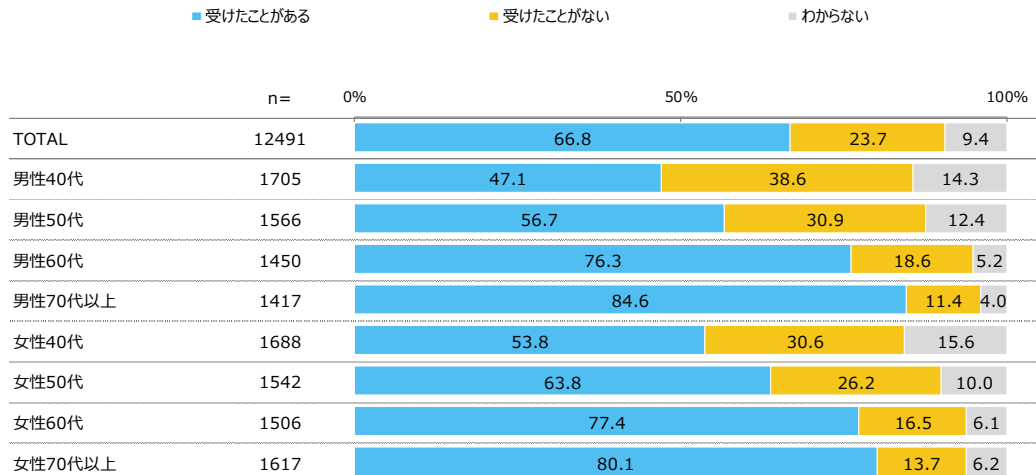
緑内障と診断されたことがあるのは 6.4%で、診断された人の 56.5%は自覚症状がなかったと回答している。そうした人が眼科を受診したのは「検診(健康診断を含む)を受けて問題があると言われたから」(48.5%)、「眼科を受診中に、眼科医に勧められたから」(34.4%)といった理由からである。



2. 3 眼底検査の認知

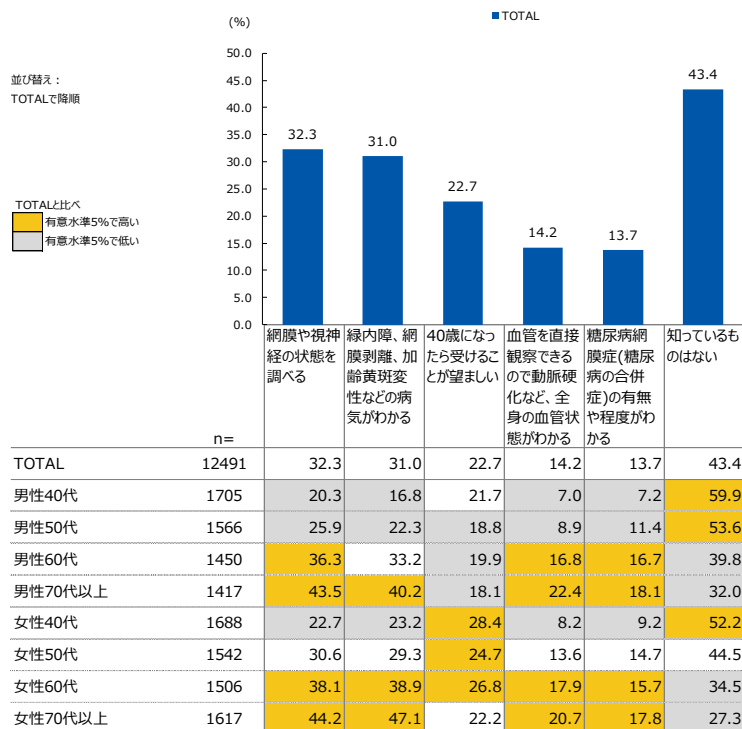
■眼底検査の受診経験(参照:P42)

眼底検査の受診について、「受けたことがある」は 66.8%。性・年代別に見ると、男女とも年代が上がるにつれ、受診経験は高く、40代では5割前後に対し、70代以上では8割以上となっている。



■眼底検査の認知内容(参照:P45)

眼底検査の特徴について、何らか知っている人は 56.6%。認知内容では、「網膜や視神経の状態を調べる」が 32.3%と最も高い。「40歳になったら受けることが望ましい」は男性40代で約2割、女性40代でも3割未満である。

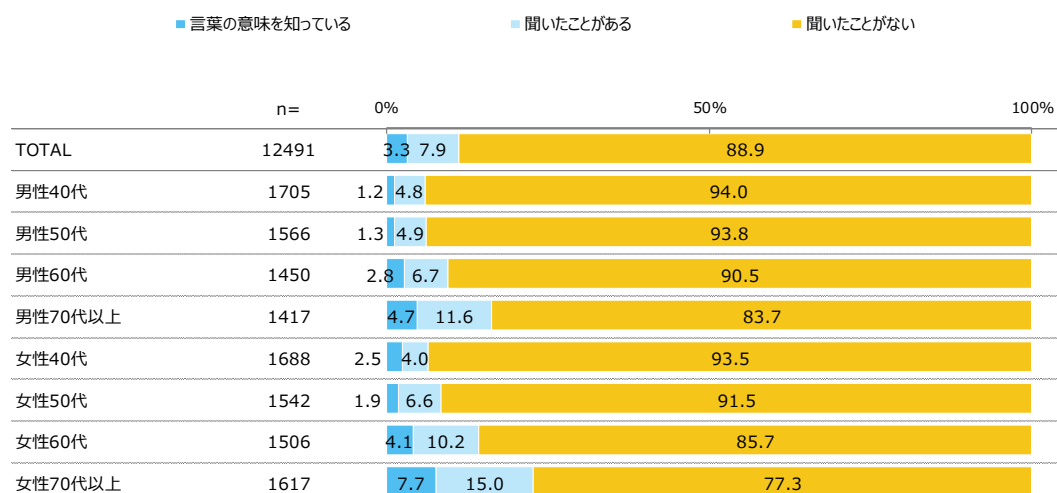


2. 4 アイフレイルの認知

■アイフレイルの認知(参照:P50)

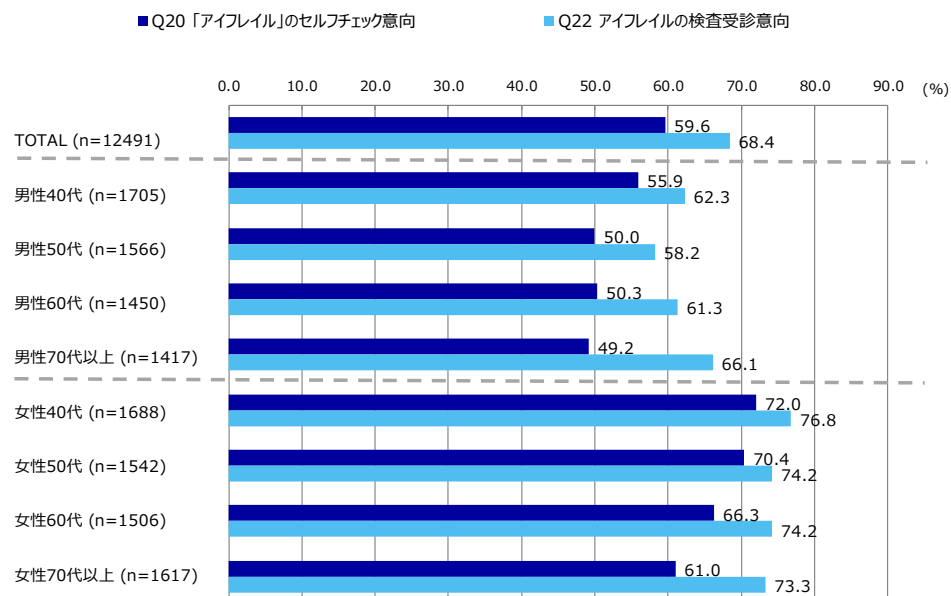
アイフレイルについての認知度は「言葉の意味を知っている」(3.3%)、「聞いたことがある」(7.9%)を合わせても 11.1%と、1 割程度である。

特に、男女ともに 40～50 代では「聞いたことがない」が 9 割以上にのぼり、低い認知度である。



■アイフレイルのセルフチェック意向と検査の受診意向(参照:P55、59～61)

アイフレイルのセルフチェック意向、検査の受診意向を比較したのが以下のグラフである。
各年代とも女性の方が、アイフレイルのセルフチェック・検査受診意向ともに高い。

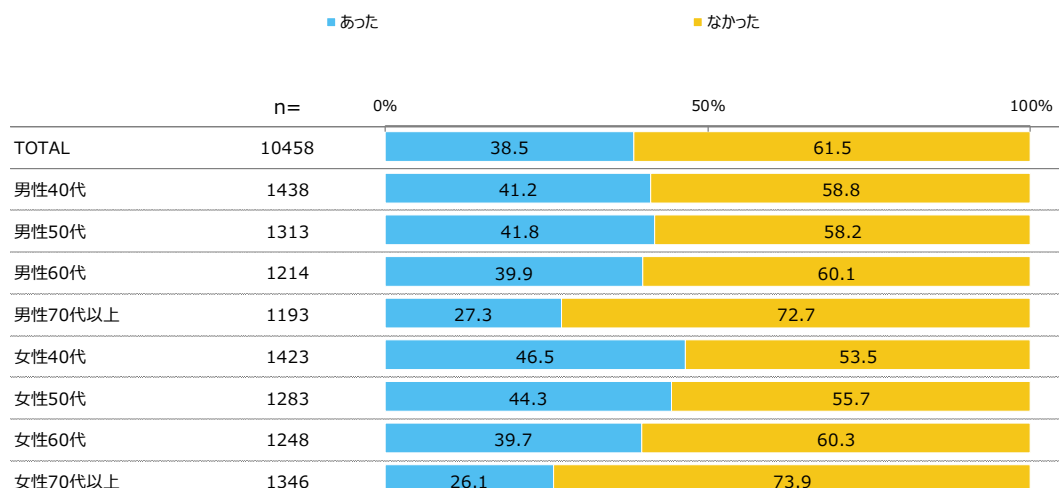


※Q20 (アイフレイルのセルフチェック意向) については「とても思う」+「やや思う」、
Q22 (アイフレイル検査受診意向) については「ぜひ、受けたい」+「どちらかといえば受けたい」の割合を表示している。

2. 5 眼底検査に関するテレビ CM の認知

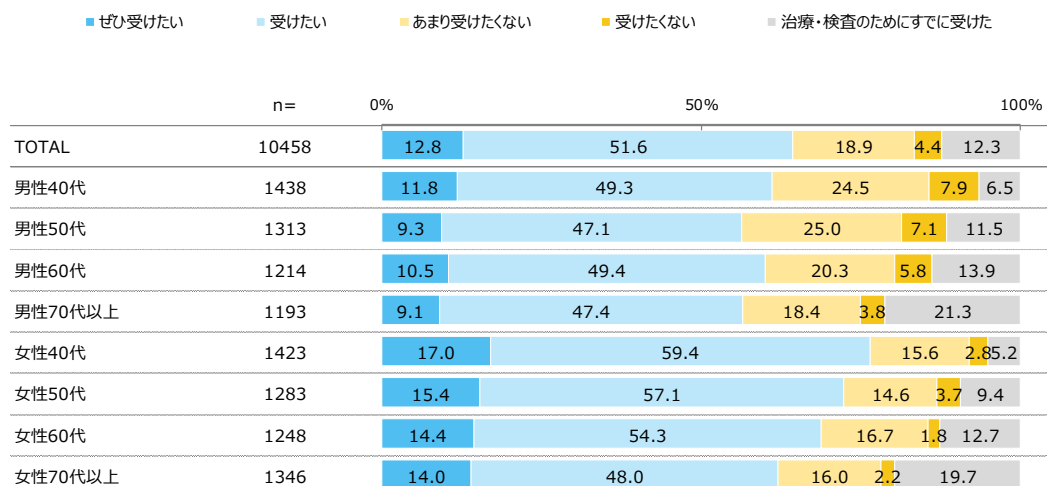
■眼底検査に関するテレビ CM の認知(参照:P62)

眼底検査に関するテレビ CM を視聴してもらい、視聴経験を尋ねたところ、「あった」が 38.5% であり、回答者の4割近くが視聴していた。性・年代別に見ると、男女とも 70 代以上は CM の視聴が「あった」割合が3割未満と低い。



■眼底検査に関するテレビ CM の認知(参照:P63)

CM 視聴等による定期的な目の検診の受診意向は、「ぜひ受けたい」が 12.8%、「どちらかといえば受けたい」が 51.6%で、全体の 64.4%に受診意向がある。性・年代別に見ると、どの年代も男性よりも女性の受診意向が高く、眼底検査の受診経験と同様の傾向となっている。



3. 調査結果詳細

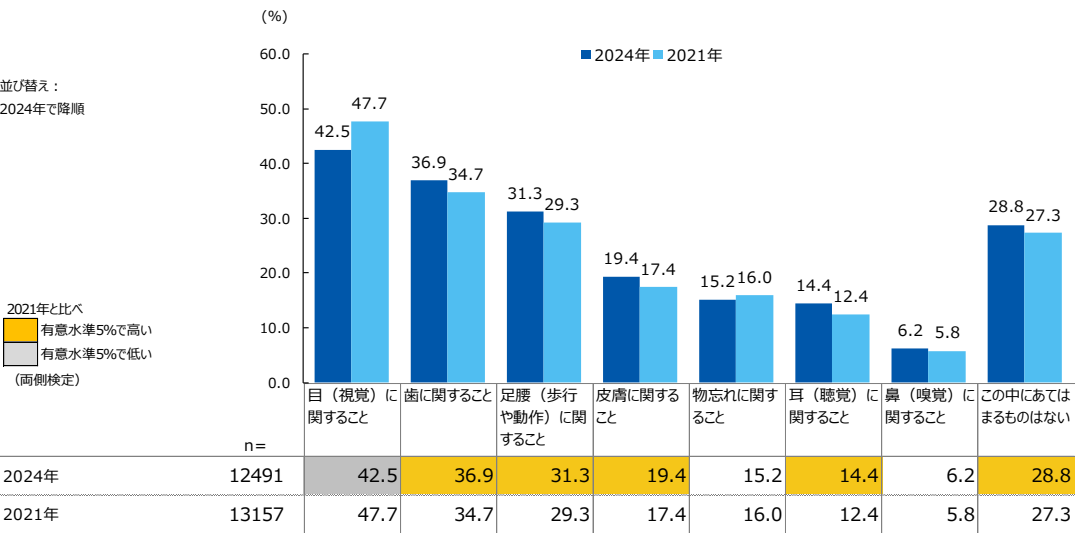
3. 1 目の健康の状態

(1)Q1 現在健康面で不自由を感じていること

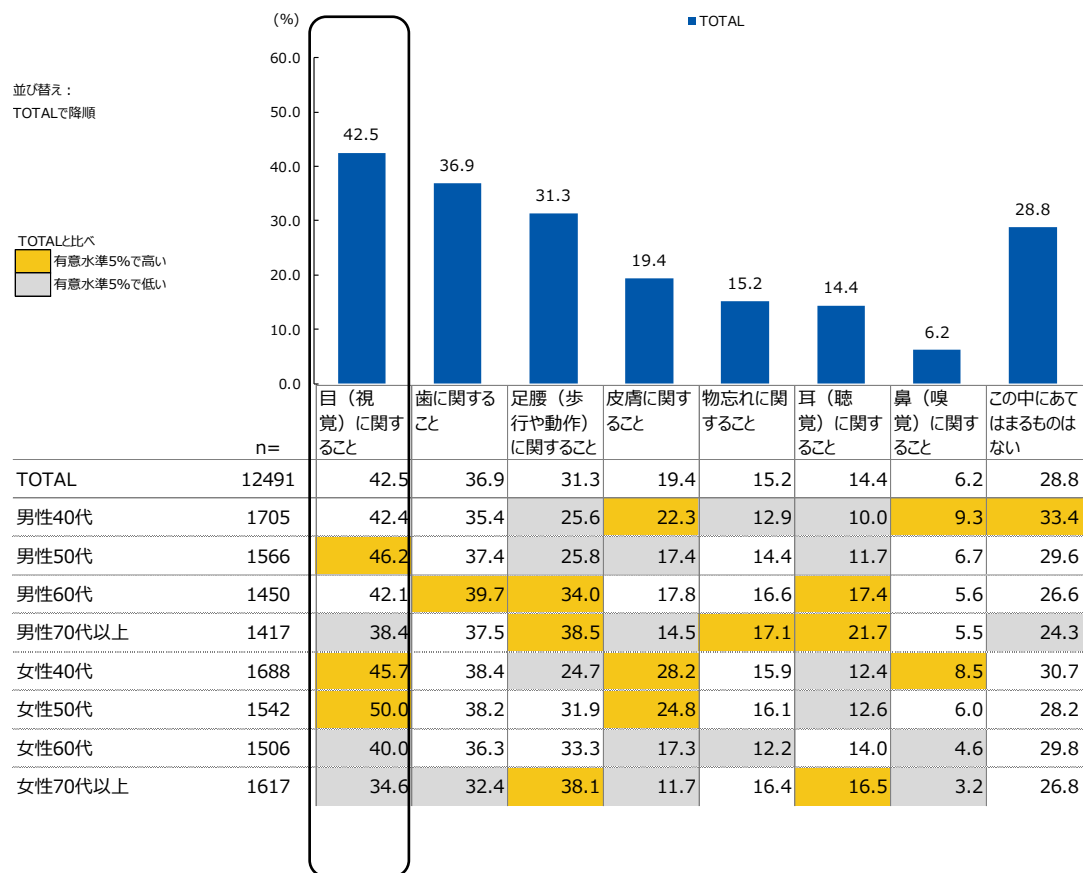
Q1 以下の中に、現在あなたが健康面で不自由を感じていることはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

現在の健康面での不自由は「目(視覚)」に関することが最も高く、42.5%。「歯に関すること」36.9%、「足腰(歩行や動作)」に関すること31.3%が続く。特に不自由を感じていない(この中にあてはまるものはない)のは 28.8%である。

2021 年調査と比較すると、「目(視覚)」に関することは約 5 ポイント低下した。一方、「歯に関すること」、「足腰(歩行や動作)」に関すること、「皮膚に関すること」、「耳(聴覚)」に関することはいずれも約 2 ポイント増加した。



「目（視覚）に関すること」を性・年代別に見ると、男女とも 50 代で不自由を感じる割合が高い。また、以降の年代では不自由を感じる割合は低下し、特に女性 70 代以上では 34.6%と全年代で最も低い割合となっている。

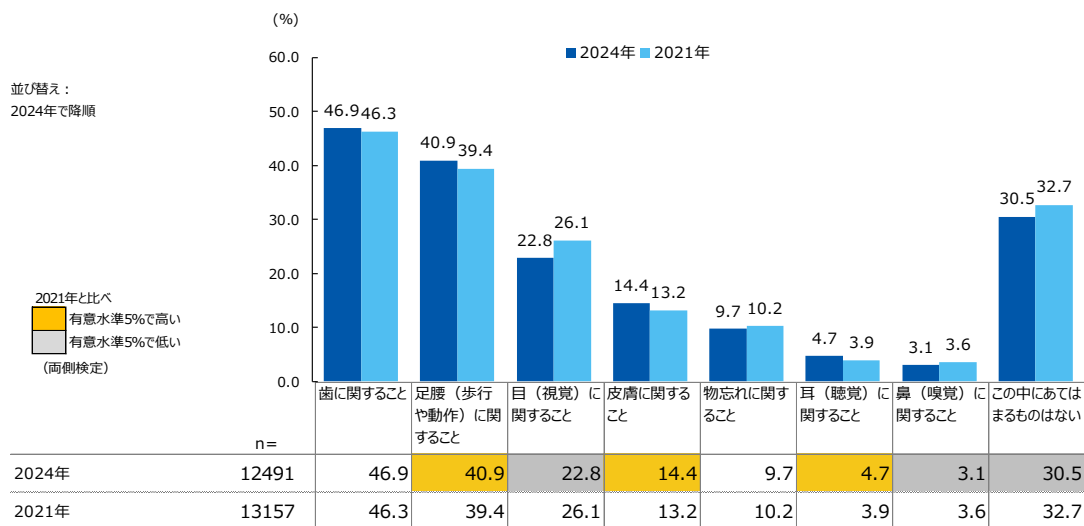


(2)Q2 普段から健康面で気にかけていること

Q2 以下の中に、あなたが普段から健康維持・病気予防に努めていることはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

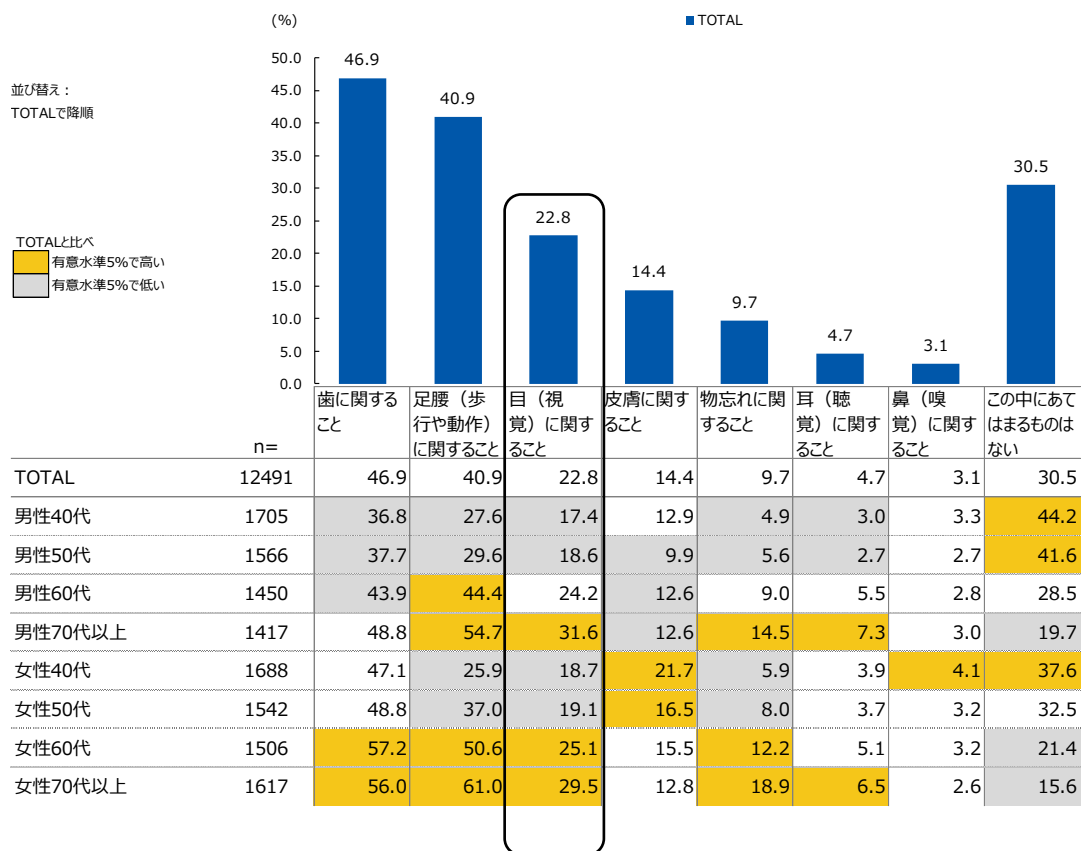
普段から健康維持・病気予防に努めていることは「歯に関すること」が最も高く、46.9%。「足腰(歩行や動作)に関すること」40.9%、「目(視覚)に関すること」22.9%が続く。特に健康維持・病気予防に努めていることはない(この中にあてはまるものはない)のは30.5%である。

2021年調査と比較すると、「目(視覚)に関すること」は約3ポイント低下した。一方、「足腰(歩行や動作)に関すること」、「皮膚に関すること」、「耳(聴覚)に関すること」は前回より高くなっている。



「目（視覚）」に関することを性・年代別に見ると、女性 60 代以上、男性 70 代以上では健康維持・病気予防の意識が 3 割前後と高いのに比べ、40 代では 2 割未満にとどまっており、年代による違いが見られる。

年代が高くなるにつれて、何らかの健康維持・病気予防に努めている割合も高くなる傾向にある。

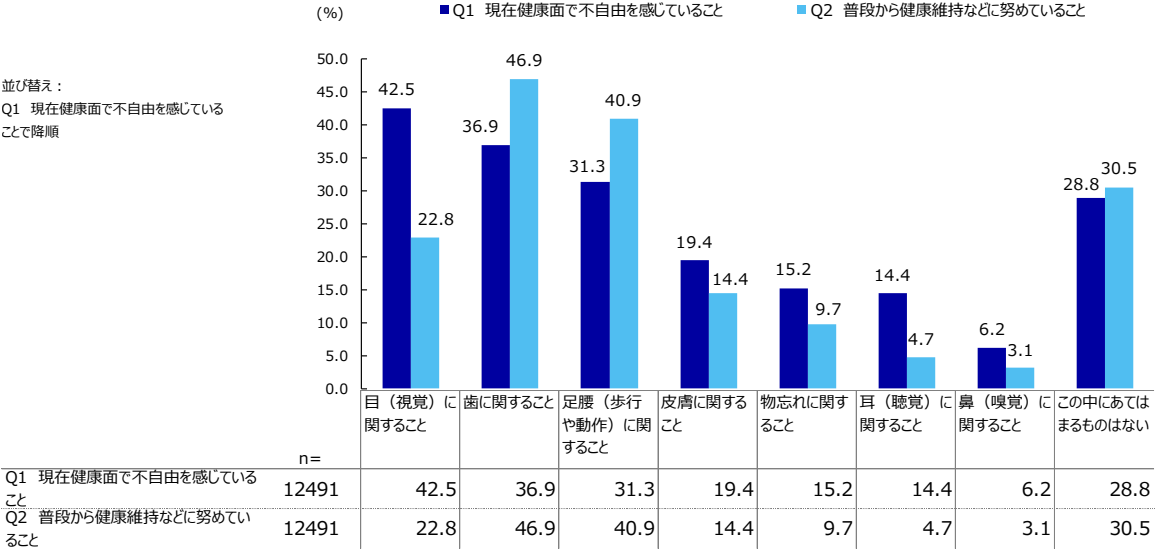


Q1～2 の結果を比較したのが以下のグラフである。

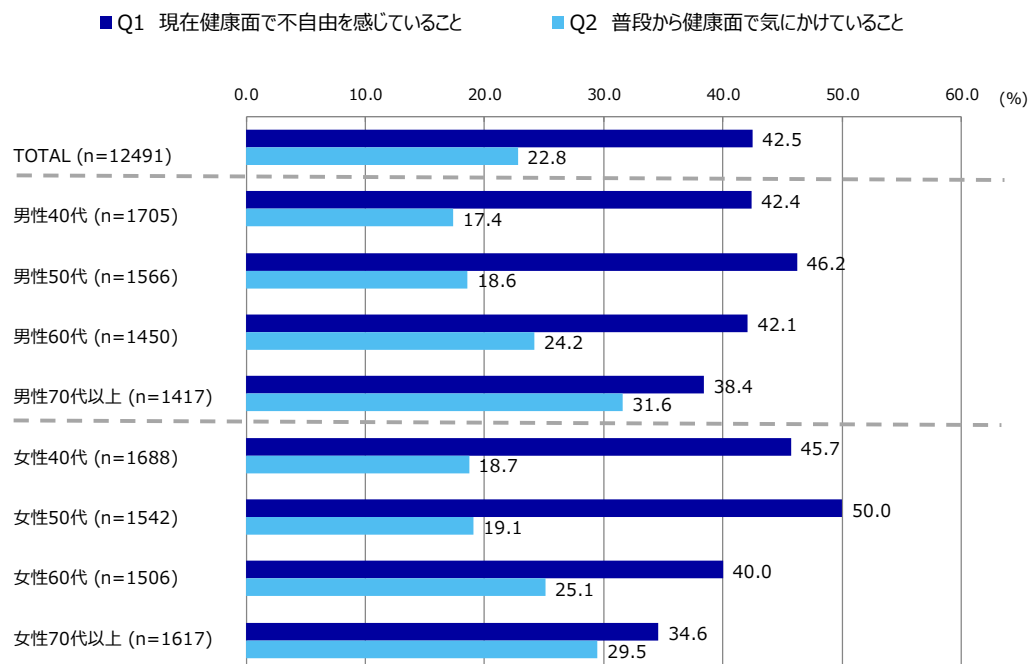
「目（視覚）に関すること」は現在不自由を感じている割合が高い一方で、普段から健康維持などに努めている割合は低いのが大きな特徴である。

「歯に関すること」、「足腰（歩行や動作）に関すること」は現在不自由を感じていなくても普段から健康維持に努めている割合が高い項目である。

「耳（聴覚）に関すること」に不自由を感じている割合は 14.4%と高くはないが、普段から健康維持などに努めている割合とのギャップは「目（視覚）に関すること」に次いで高い。



Q1～2 の「目（視覚）に関すること」の回答割合を性・年代別に比較したのが以下のグラフである。
男女ともに 60 代以下は現在の不自由さ、今後の心配と普段からの意識のギャップが大きいが、
70 代ではそのギャップが小さくなっている。

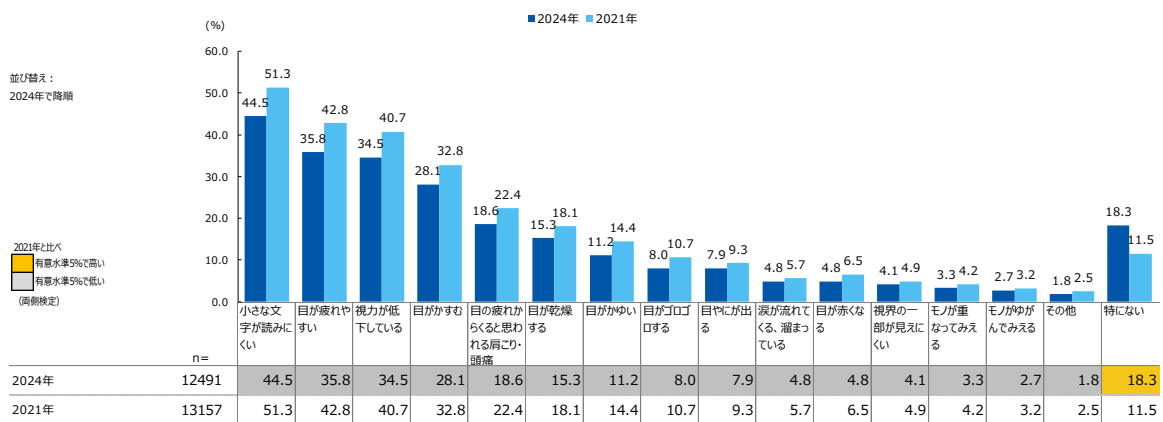


(3)Q3 目について気になっていること

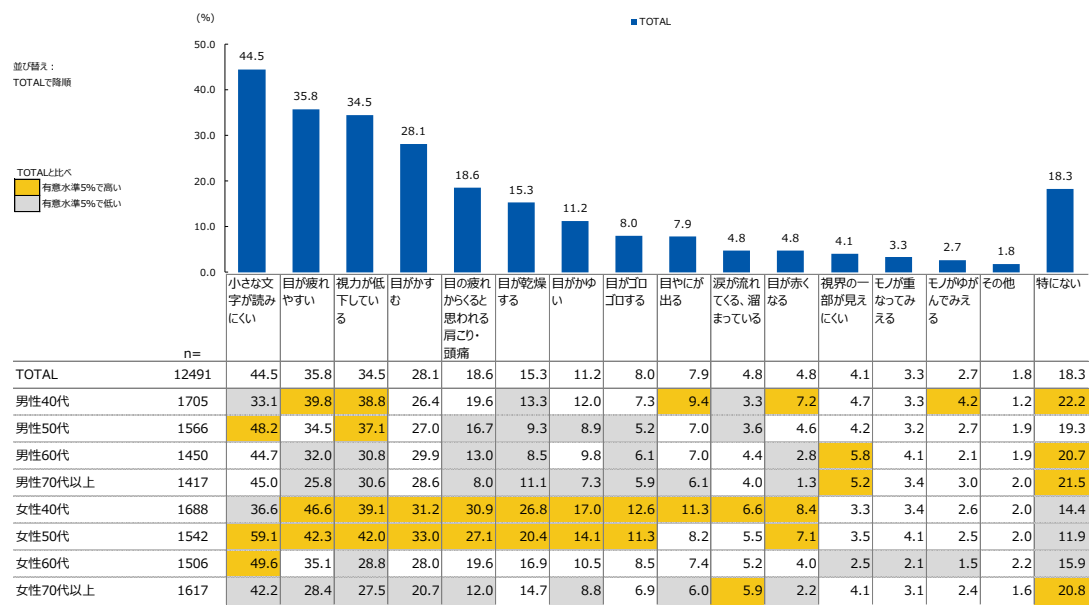
Q3 あなたが現在、目について、気になっていることはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

現在目について気になっていることは、「小さな文字が読みにくい」が最も高く、44.5%。「目が疲れやすい」35.8%、「視力が低下している」34.5%が続く。「特にない」のは18.3%である。

2021年調査と比較すると、いずれの項目も前回より低下し、「特にない」は約7ポイント増加した。低下した項目では、「目が疲れやすい」が7ポイントの低下となっている。



性・年代別に見ると、40代では「目が疲れやすい」（男性 39.8%、女性 46.6%）、「視力が低下している」（男性 38.8%、女性 39.1%）が「小さな文字が読みにくい」（男性 33.1%、女性 36.6%）よりも上位にあげられている。一方、50代では「小さな文字が読みにくい」（男性 48.2%、女性 59.1%）が気になっていることとして最も高くなっており、40代に比べて男女ともに大きく増加している。

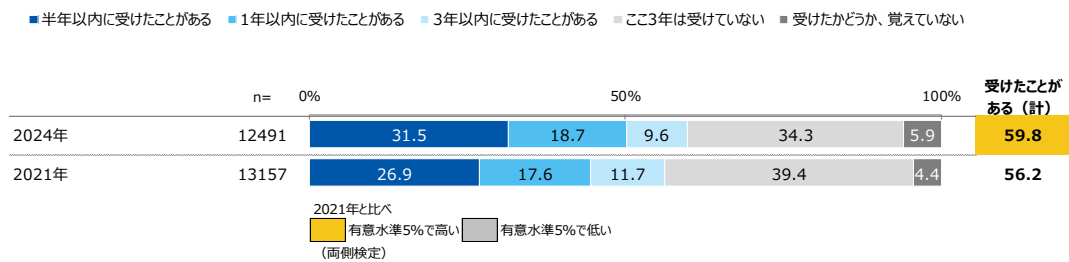


(4)Q4 最近目の検査を受けた時期

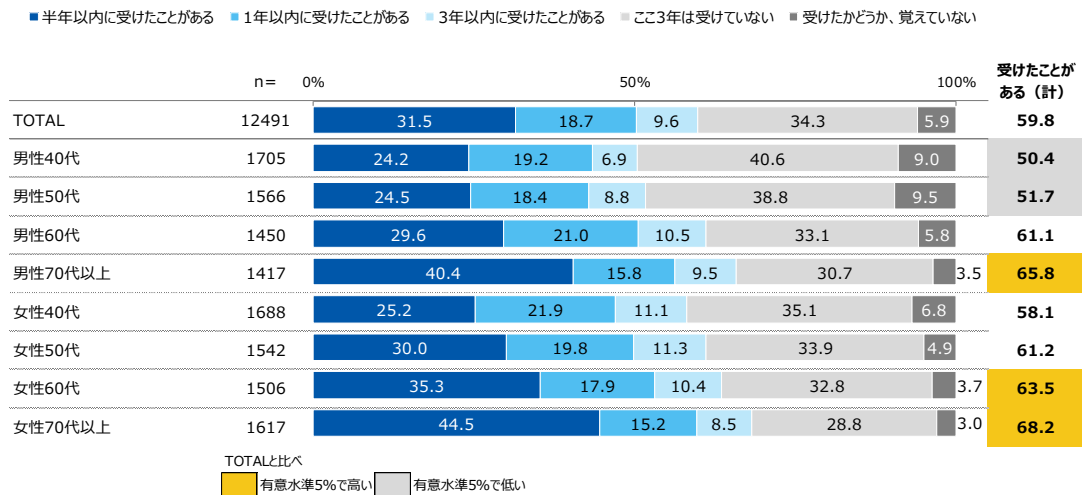
Q4 最近、目の検査を受けたことはありますか。

目の検査については「ここ 3 年は受けていない」が最も高く、34.3%。「半年以内に受けたことがある」31.5%、「1 年以内に受けたことがある」18.7%が続く。3 年以内の受診率は 59.8%である。

2021 年調査と比較すると、「ここ 3 年は受けていない」が約 5 ポイント低下し、「半年以内に受けたことがある」が約 5 ポイント増加した。

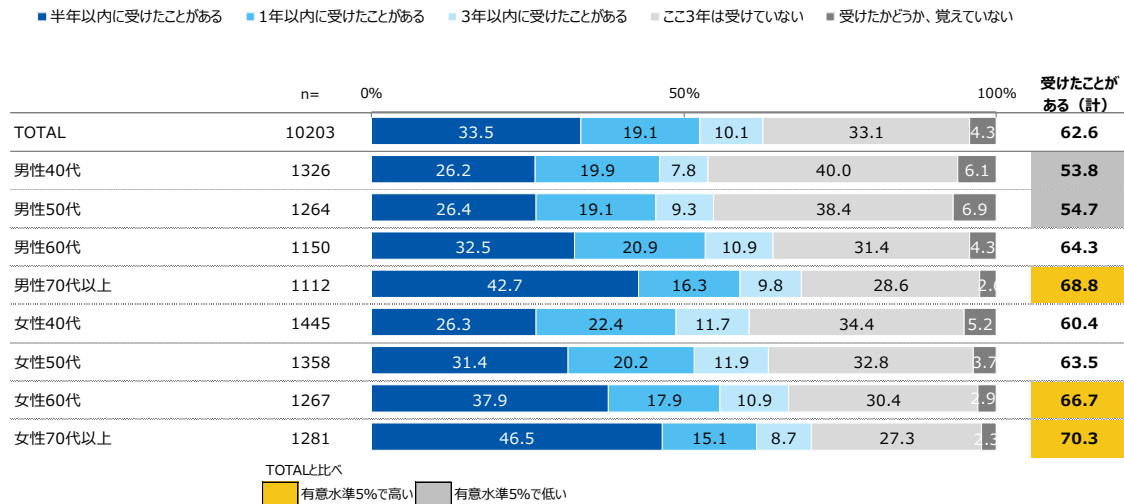


性・年代別に見ると、年代が高くなるにつれて受診率も高くなる傾向にある。男女とも 70 代以上では4割を超える人が半年以内に受診しており、どの年代も女性の方が男性より受診率が高い。

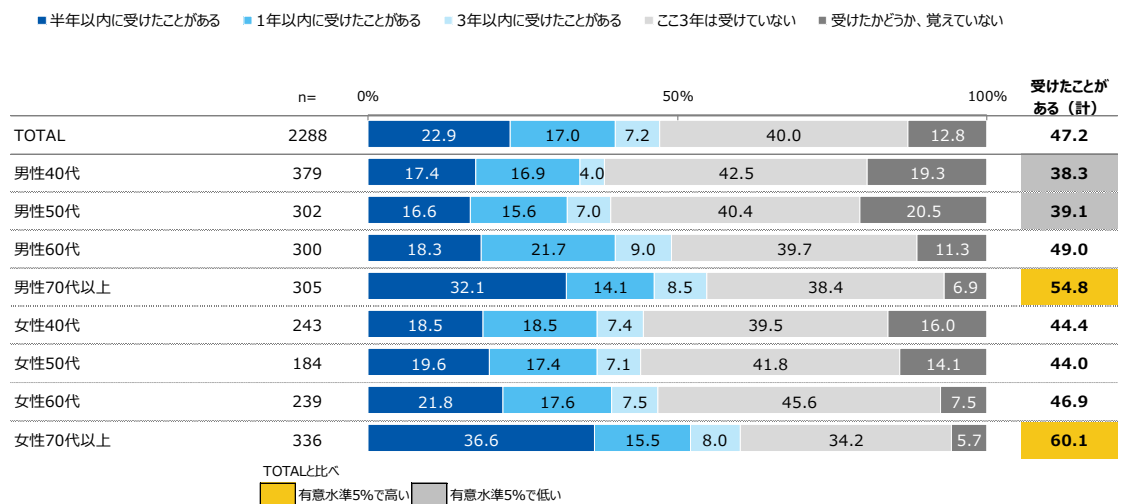


Q3 で何らかの症状があると回答した人、症状がないと回答した人について、それぞれ性・年代別に見たのが以下のグラフである。症状がある人の方が検査の受診率が高いが、それでも 37.4%は 3 年以内に受診しておらず、特に若い年代の方が低い受診率となっている。

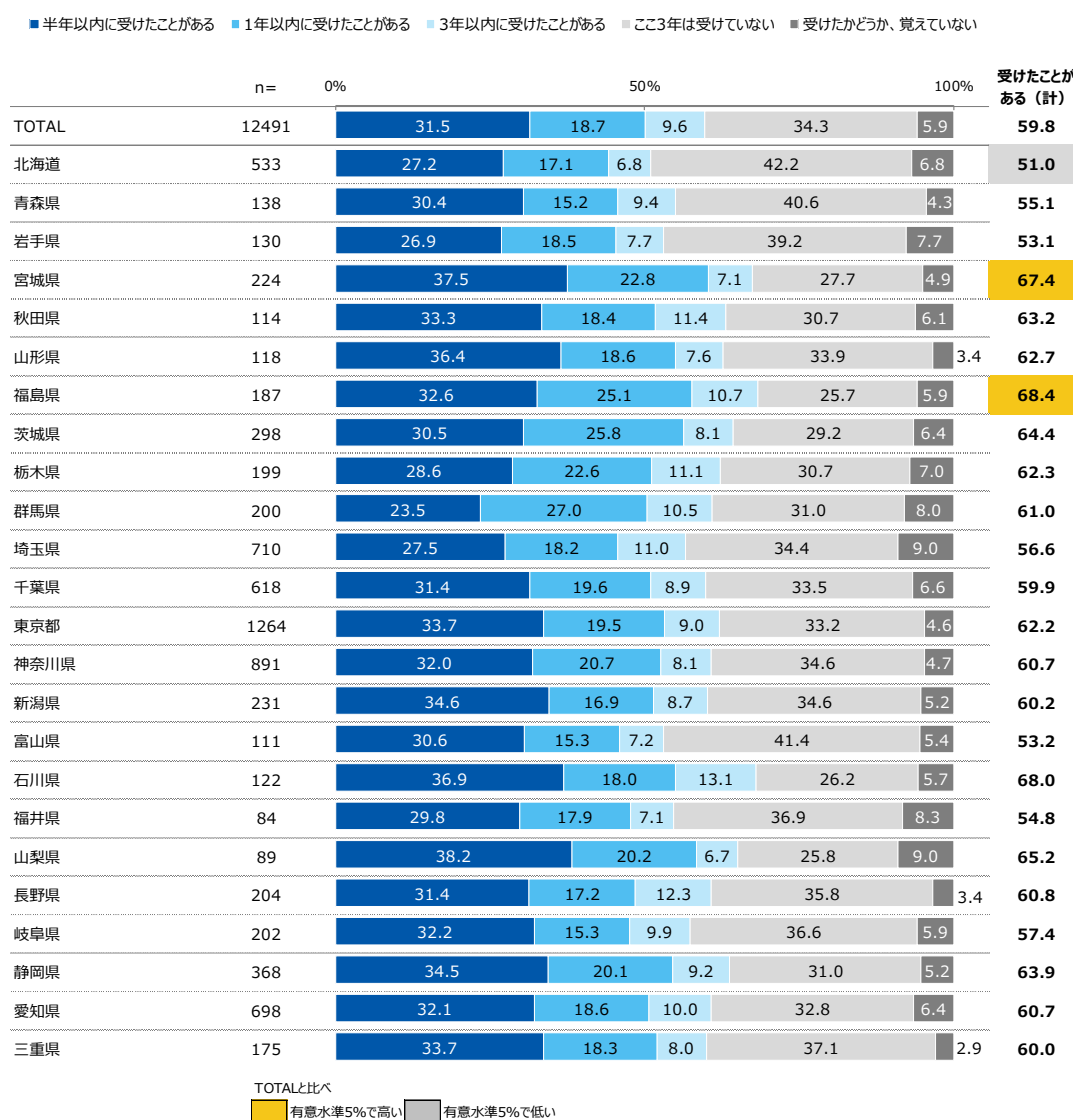
【Q3 何らかの症状がある人】



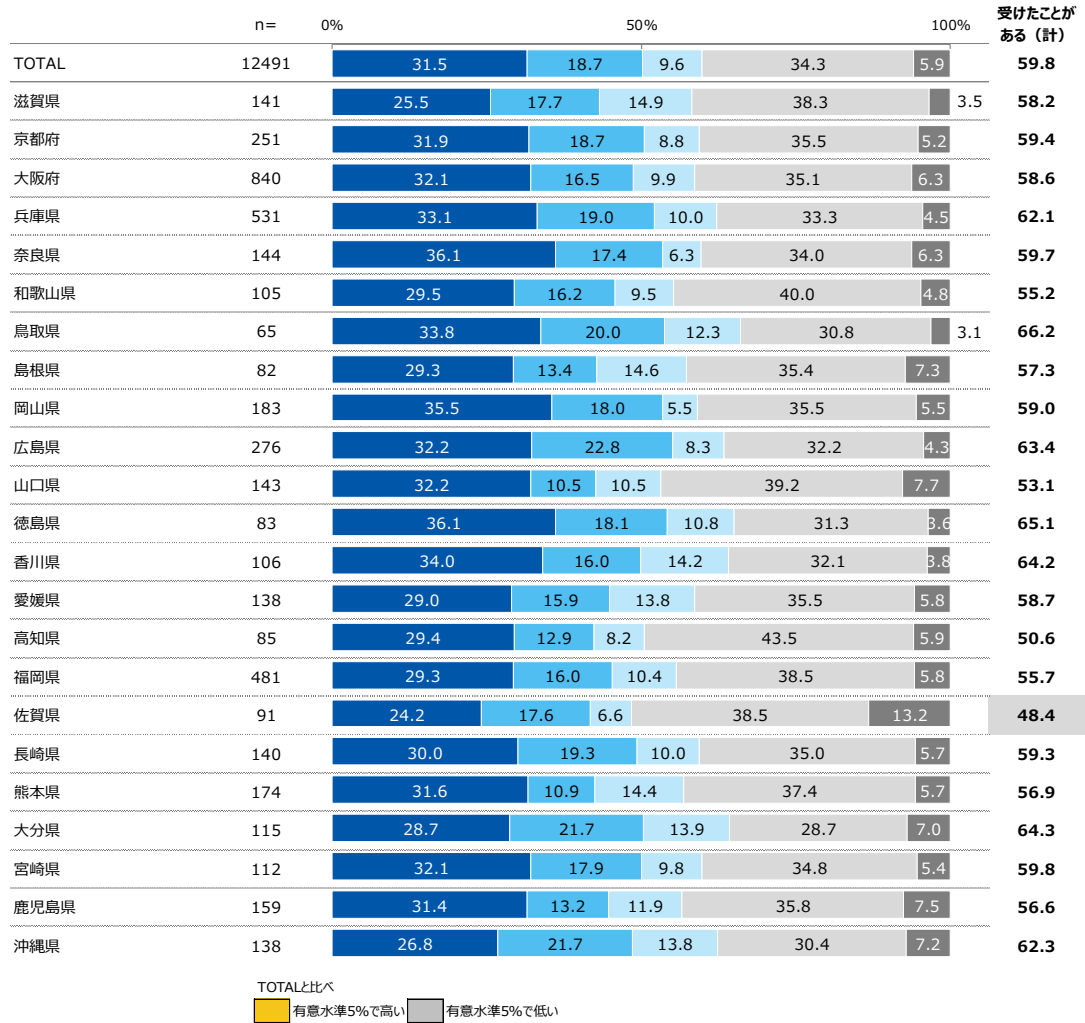
【Q3 気になる症状は特にない人】



都道府県別の結果は以下のとおりである。受診率が低いのは、佐賀県(48.4%)、高知県(50.6%)、北海道(51.0%)である。一方、受診率が高いのは、福島県(68.4%)、石川県(68.0%)、宮城県(67.4%)となっている。



■ 半年以内に受けたことがある ■ 1年以内に受けたことがある ■ 3年以内に受けたことがある ■ ここ3年は受けていない ■ 受けたかどうか、覚えていない

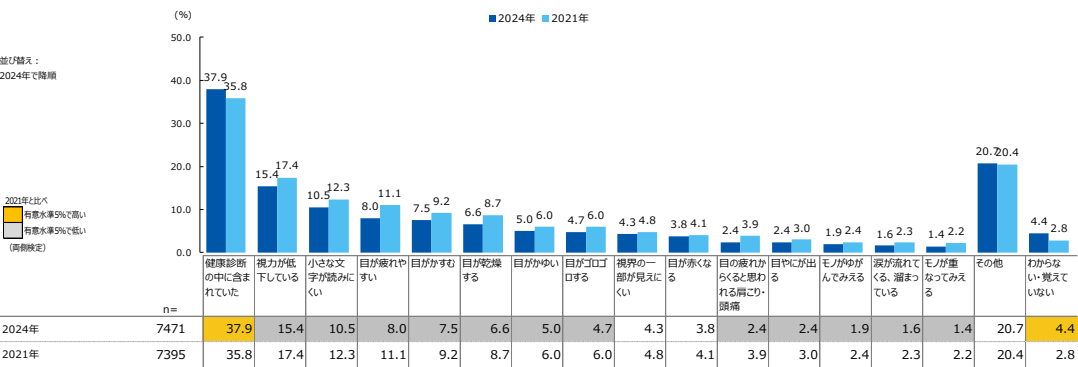


(5)Q4-1 検査受診理由

Q4_1 どのような理由で目の検査を受けましたか。あてはまるものをすべてお選びください。
(複数回答)【対象:Q4 で 3 年以内に目の検査を受けたと回答した人】

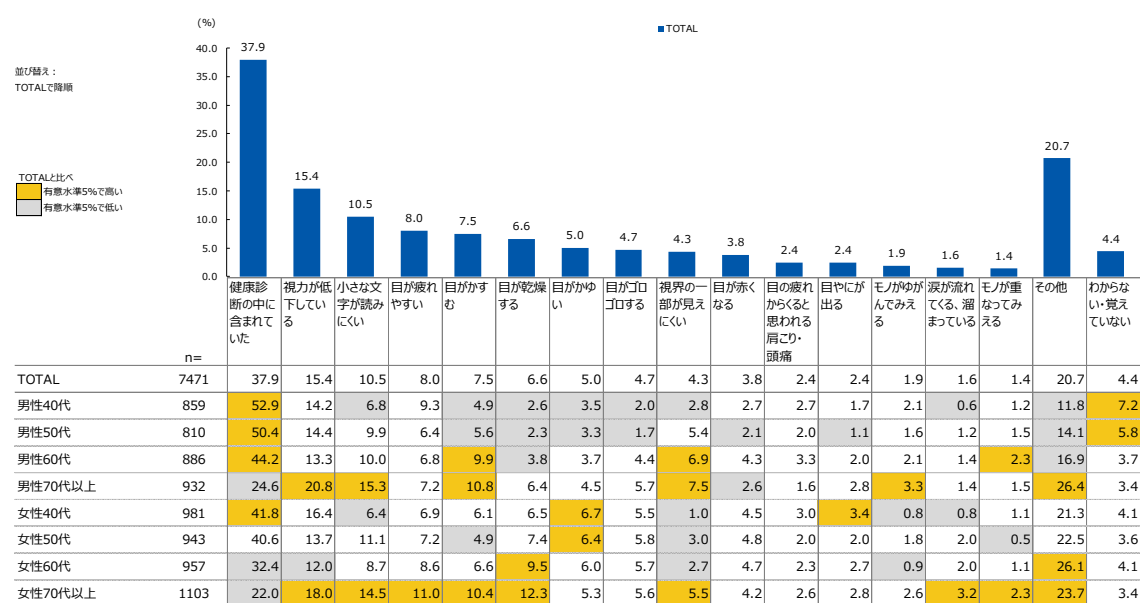
目の検査を受けた理由は、「健康診断の中に含まれていた」が最も高く、37.9%。「視力が低下している」15.4%、「小さな文字が読みにくい」10.2%が続く。

2021 年調査と比較すると、「健康診断の中に含まれていた」は約 2 ポイント増加した。一方、多くの項目はやや低下した。うち、「目が疲れやすい」は約 3 ポイント、「目が乾燥する」は約 2 ポイント低下した。



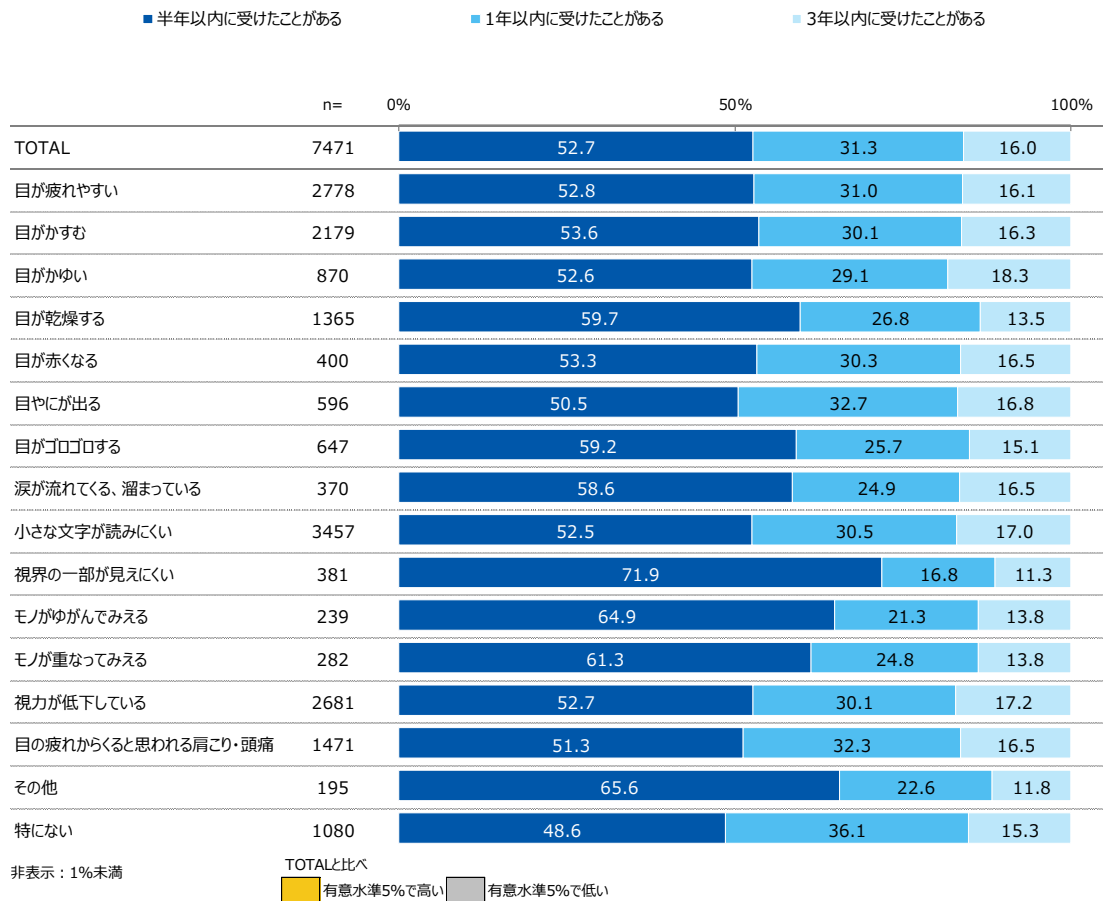
性・年代別に見ると、男性 40～60 代は「健康診断の中に含まれていた」と回答する割合が高く、気になる症状があつて検査を受けることは少ないことがうかがえる。女性は男性に比べ、「目がかゆい」、「目が乾燥する」、「目がゴロゴロする」といった症状で検査を受ける割合が高い。

なお「その他」については、「定期的に検査を受けている」、「眼鏡やコンタクトレンズの購入の際に受けた」、「診断されている病気（緑内障、白内障、飛蚊症等）の治療のため」、「免許の更新」といった理由があげられている。



3年以内に目の検査を受けた人について、その理由別に見たのが以下のグラフである。

半年以内の受診割合が最も高い理由は「視界の一部が見えにくい」(71.9%)、「モノがゆがんでみえる」(64.9%)、次いで「モノが重なってみえる」(61.3%)となっており、これらは受診につながりやすい自覚症状であると考えられる。

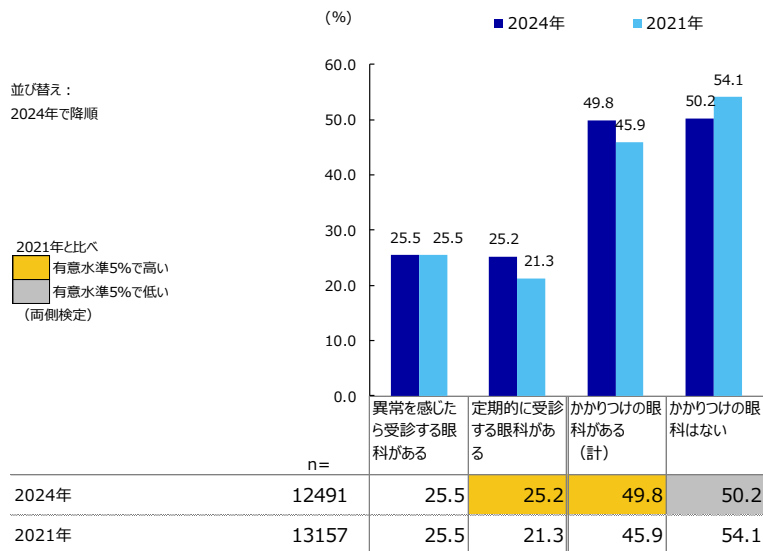


(6) Q5 かかりつけ眼科の有無

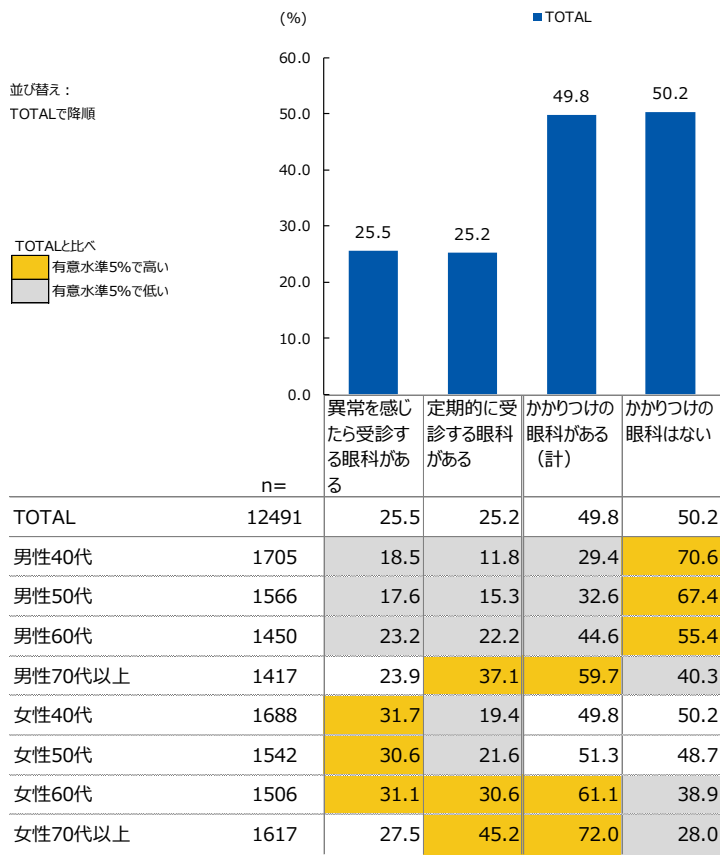
Q5 かかりつけの眼科はありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

かかりつけの眼科については、「異常を感じたら受診する眼科がある」が 25.5%、「定期的に受診する眼科がある」25.2%で、全体の 49.8%はかかりつけの眼科があると回答している。

2021 年調査と比較すると、「異常を感じたら受診する眼科がある」は差がないものの、「定期的に受診する眼科がある」は約4ポイント向上した。



性・年代別に見ると、男性よりも女性の方が、また年代が高くなるほどかかりつけの眼科がある割合が高い。男性 40 代、50 代の 7 割前後は「かかりつけの眼科はない」と回答している。



都道府県別の結果は以下のとおりである。

佐賀県は「定期的に受信する眼科がある」が 15.4%と低く、かかりつけの眼科がある割合も 35.2%と4割を下回っている。

	n=	定期的 に受信 する眼科 がある	（％）		
			異常を感じ たら受診す る眼科があ る	かかりつけの 眼科がある （計）	かかりつけの 眼科はない
TOTAL	12491	25.2	25.5	49.8	50.2
北海道	533	20.8	24.0	44.3	55.7
青森県	138	26.1	18.1	44.2	55.8
岩手県	130	22.3	21.5	43.8	56.2
宮城県	224	29.9	23.7	52.7	47.3
秋田県	114	26.3	32.5	57.0	43.0
山形県	118	29.7	21.2	50.8	49.2
福島県	187	25.7	26.2	51.9	48.1
茨城県	298	28.9	25.5	54.0	46.0
栃木県	199	17.6	32.2	49.2	50.8
群馬県	200	23.0	30.0	52.5	47.5
埼玉県	710	23.7	23.7	46.3	53.7
千葉県	618	22.3	25.7	47.2	52.8
東京都	1264	25.6	25.2	49.5	50.5
神奈川県	891	23.5	24.7	47.0	53.0
新潟県	231	24.7	30.7	55.0	45.0
富山県	111	19.8	22.5	41.4	58.6
石川県	122	26.2	27.9	53.3	46.7
福井県	84	27.4	16.7	44.0	56.0
山梨県	89	27.0	22.5	48.3	51.7
長野県	204	27.9	26.5	53.4	46.6
岐阜県	202	23.8	28.7	52.0	48.0
静岡県	368	27.7	24.2	49.7	50.3
愛知県	698	26.4	22.6	48.3	51.7
三重県	175	29.7	29.7	57.1	42.9

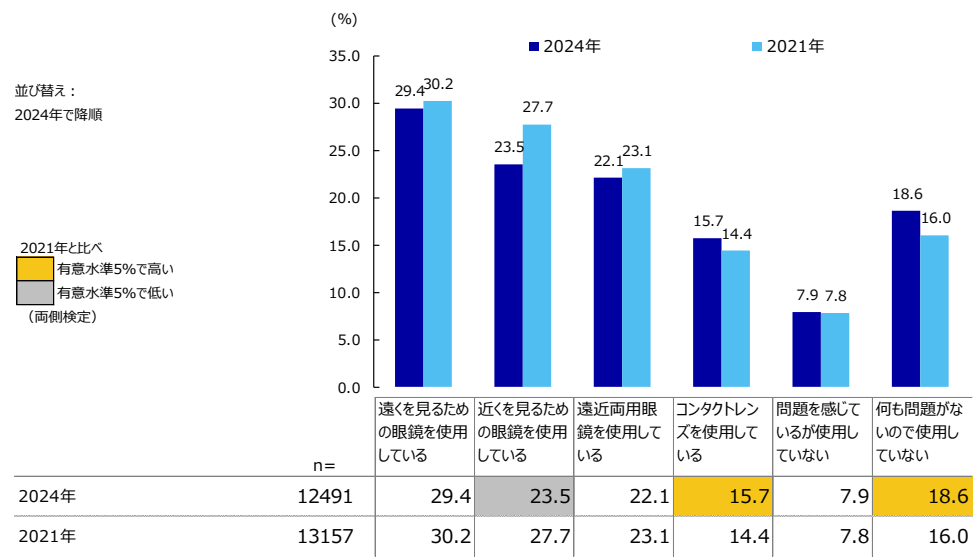
	n=	定期的に受 診する眼科 がある	異常を感じ たら受診す る眼科があ る	（％）	
				かかりつけの 眼科がある （計）	かかりつけの 眼科はない
TOTAL	12491	25.2	25.5	49.8	50.2
滋賀県	141	26.2	28.4	53.2	46.8
京都府	251	27.9	25.9	53.0	47.0
大阪府	840	26.0	25.4	50.0	50.0
兵庫県	531	28.6	29.2	57.1	42.9
奈良県	144	27.1	30.6	56.9	43.1
和歌山県	105	23.8	28.6	52.4	47.6
鳥取県	65	23.1	32.3	53.8	46.2
島根県	82	26.8	28.0	54.9	45.1
岡山県	183	30.6	26.2	56.3	43.7
広島県	276	23.9	24.6	48.6	51.4
山口県	143	21.0	31.5	50.3	49.7
徳島県	83	27.7	33.7	60.2	39.8
香川県	106	20.8	30.2	50.9	49.1
愛媛県	138	27.5	20.3	47.8	52.2
高知県	85	23.5	17.6	40.0	60.0
福岡県	481	25.2	24.3	49.1	50.9
佐賀県	91	15.4	19.8	35.2	64.8
長崎県	140	25.7	27.9	52.9	47.1
熊本県	174	27.6	27.0	54.0	46.0
大分県	115	24.3	34.8	57.4	42.6
宮崎県	112	26.8	19.6	45.5	54.5
鹿児島県	159	25.2	19.5	44.7	55.3
沖縄県	138	21.7	21.7	42.0	58.0

(7) Q6 眼鏡・コンタクトレンズの使用有無

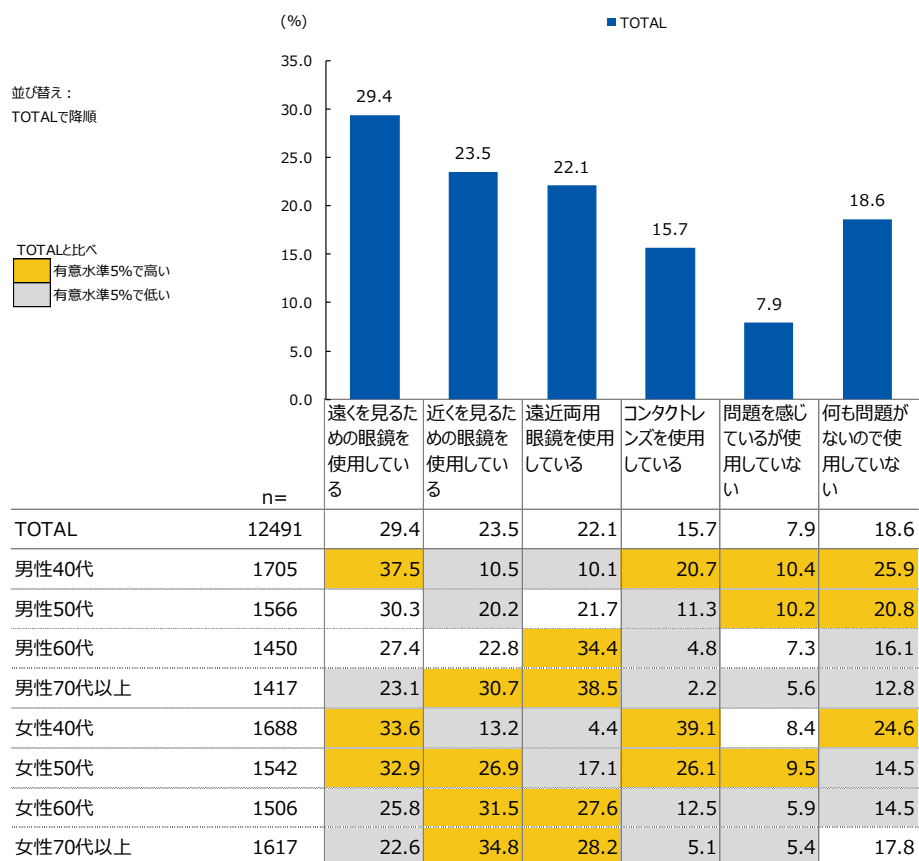
Q6 あなたは、普段眼鏡やコンタクトレンズを使用していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

「遠くを見るための眼鏡を使用している」が最も高く、29.4%。「近くを見るための眼鏡を使用している」23.5%、「遠近両用眼鏡を使用している」22.1%が続く。眼鏡・コンタクトレンズを使用しているのは73.5%である。

2021年調査と比較すると、「近くを見るための眼鏡を使用している」が約4ポイント低下している。



性・年代別に見ると男女とも40代は「何も問題がないので使用していない」が25%前後を占め、視力矯正をしている人は遠くを見るための眼鏡、もしくはコンタクトレンズの割合が高い。60代以上では近くを見るための眼鏡、もしくは遠近両用眼鏡の使用割合が高くなり、老眼の症状が出る人が多くなることがうかがえる。



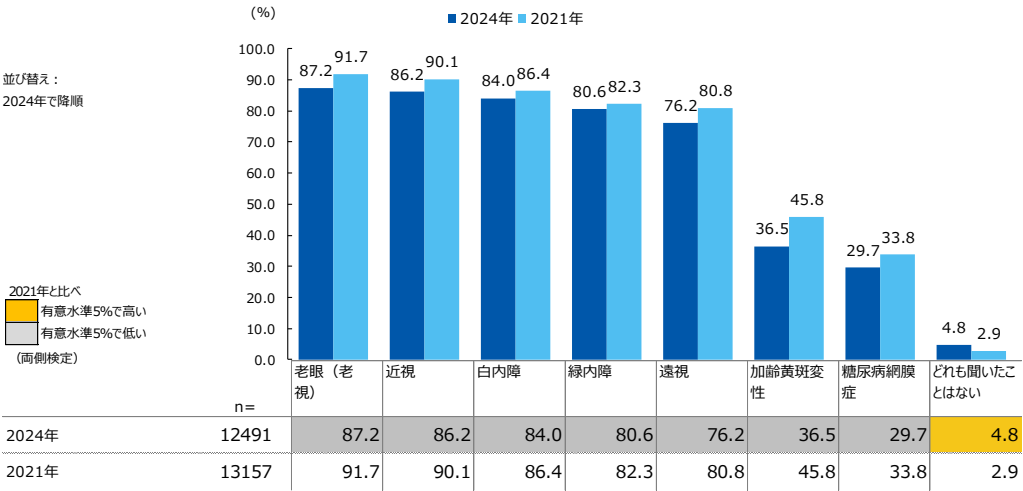
3. 2 目の病気に関する認知

(1)Q7 目の病気の認知

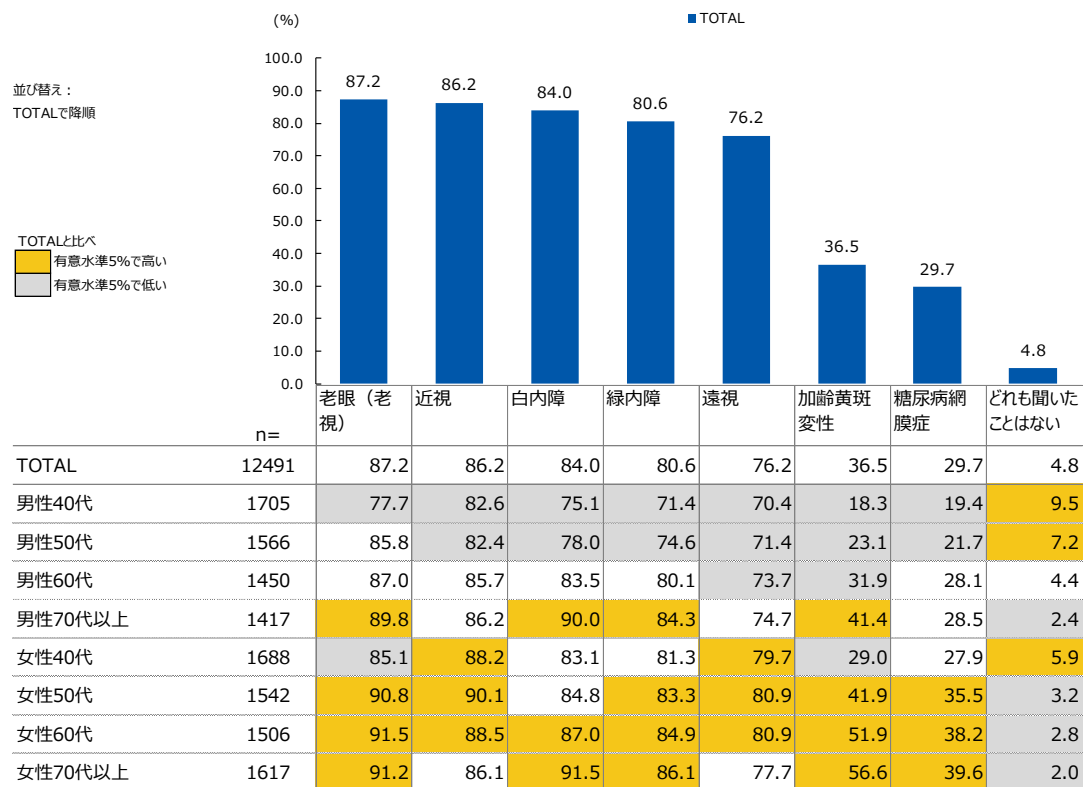
Q7 以下の中で、あなたが聞いたことがあるものをすべてお選びください。(複数回答)

聞いたことがある目の病気は「老眼(老視)」が最も高く、87.2%。「近視」86.2%、「白内障」84.0%が続く。

2021 年調査と比較すると、目の病気について、いずれも認知度が低下している。最も低下したのは「加齢黄斑変性」で約 9 ポイント低下した。



全体的に男性よりも女性の方が目の病気に対する認知度が高い。性・年代別で見ると、男性はどの病気も年代が上がるほど認知度が高い。女性では「白内障」「緑内障」「加齢黄斑変性」「糖尿病網膜症」で、年齢が上がるほど認知度が高くなっている。

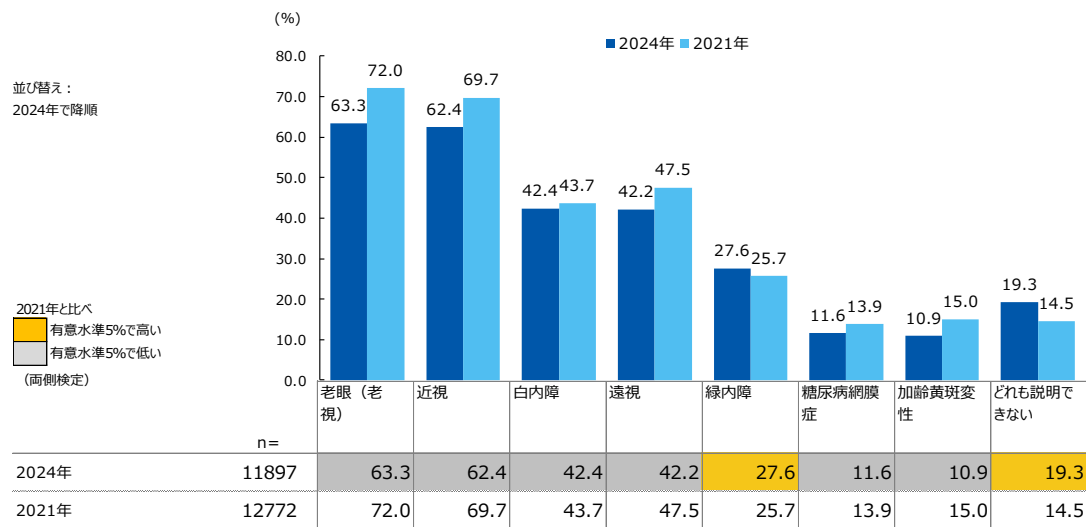


(2) Q8 説明できる目の病気

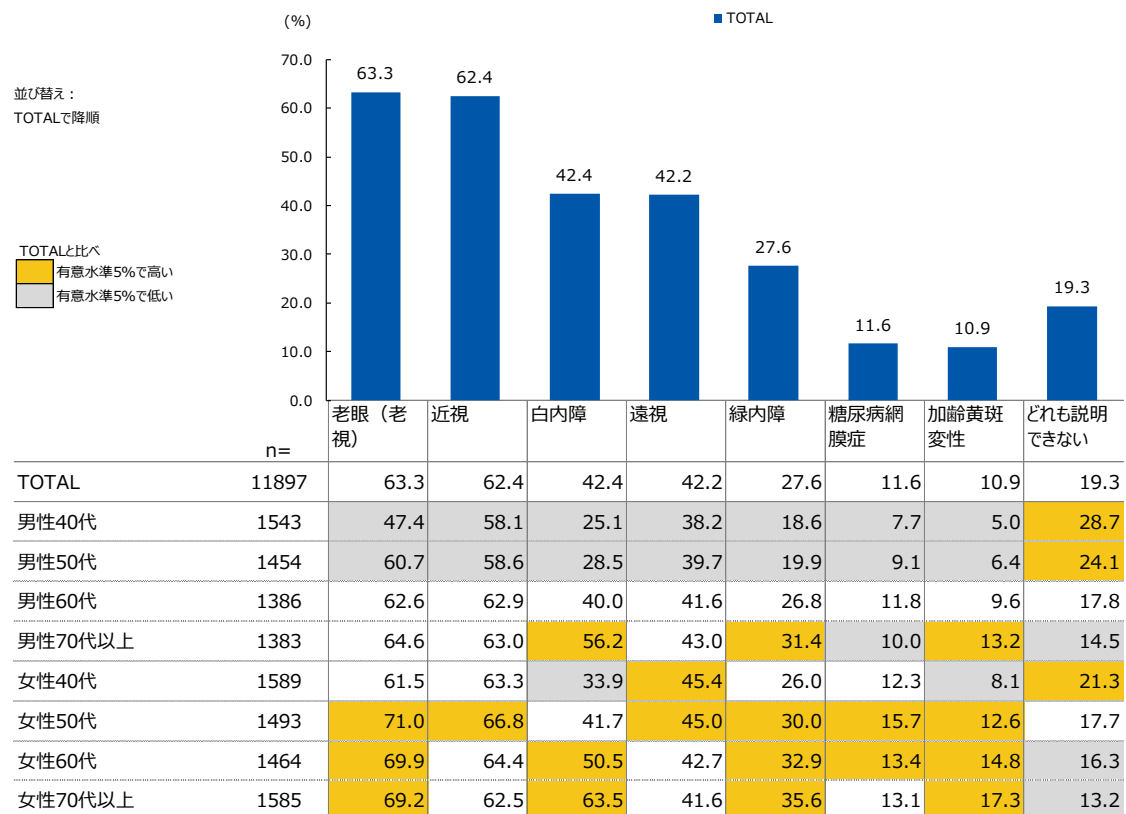
Q8 以下の中で、あなたがどんな病気か説明できるものをすべてお選びください。
 (複数回答)【Q7 で聞いたことがあると回答した病気についてのみ回答】

説明できる目の病気は「老眼(老視)」が最も高く、63.3%。「近視」62.4%、「遠視」42.4%が続く。

2021 年調査と比較すると、目の病気について、「緑内障」のみ認知度が向上している。一方、他の病気については低下しており、最も低下したのは「老眼(老視)」で約 9 ポイント低下した。



目の病気の認知と同様、男性よりも女性の方が説明できると回答した割合が高い。性・年代別で見ると、「どれも説明できない」割合は、男性 40 代で 28.7%、男性 50 代で 24.1%、女性 40 代で 21.3%と高い。

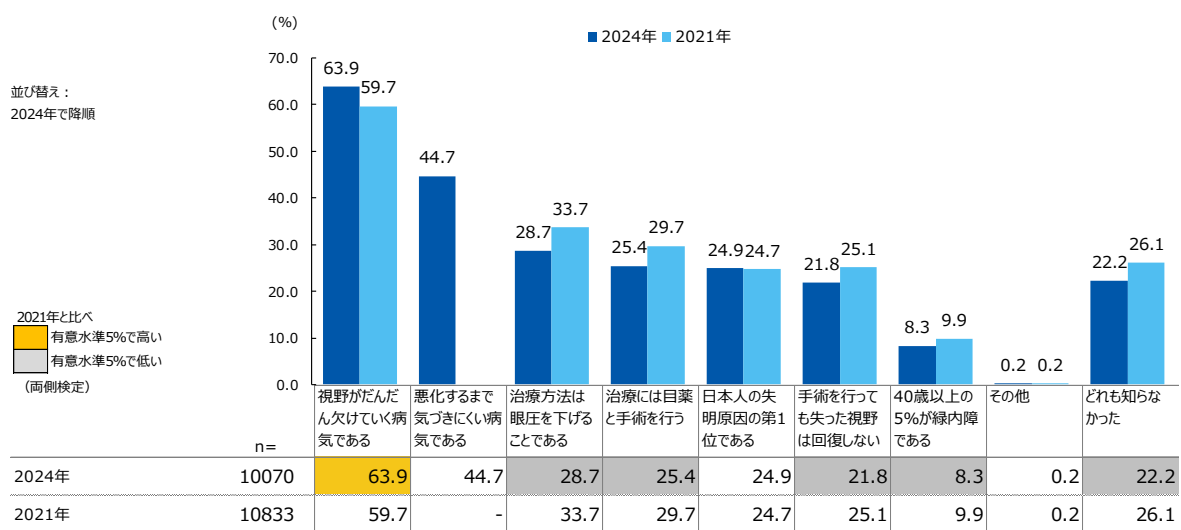


(3)Q9 緑内障について知っていること

Q9 緑内障についてあなたがお存じのことをすべてお選びください。
(複数回答)【対象:Q7 で緑内障を聞いたことがあると回答した人】

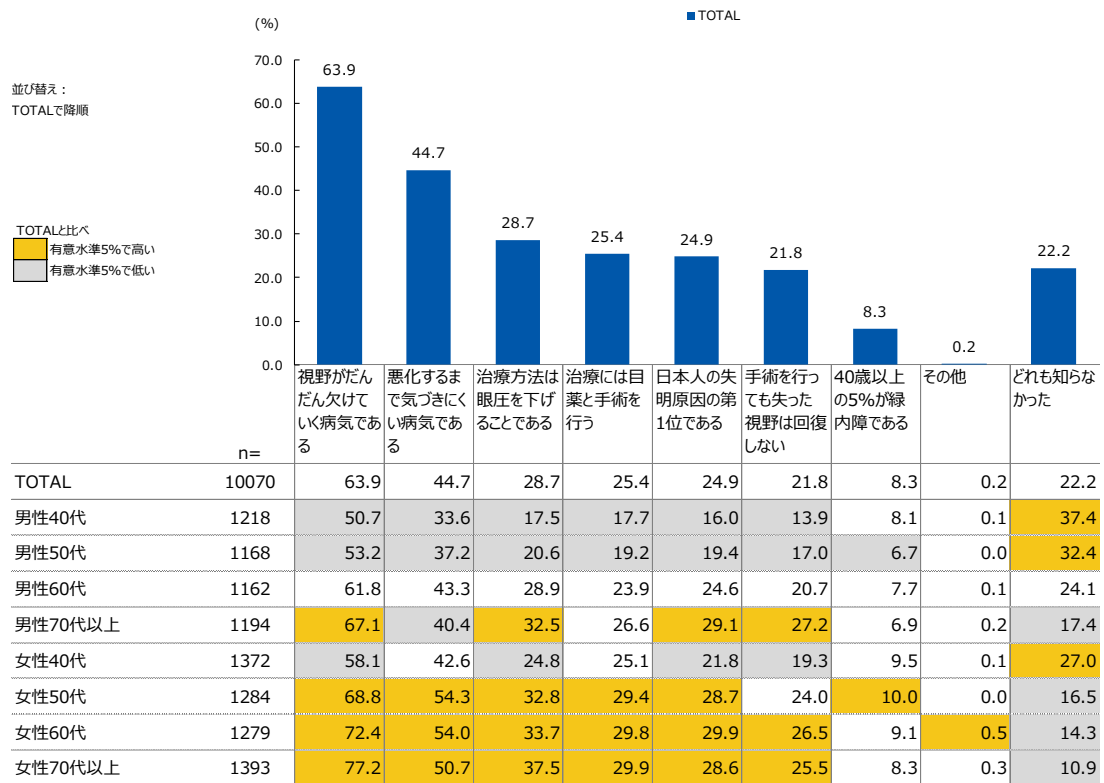
緑内障について知っていることは、「視野がだんだん欠けていく病気である」が最も高く、63.9%。「悪化するまで気づきにくい病気である」44.7%、「治療方法は眼圧を下げることであり」28.7%が続く。

2021 年調査と比較すると、緑内障について、「視野がだんだん欠けていく病気である」は約 4 ポイント向上している。一方、「治療方法は眼圧を下げることであり」は 5 ポイント低下した。



性・年代別に見ると、男女ともに年代が上がるにつれ、緑内障についての認知は高くなっている。

一方、「どれも知らなかった」が男性 40 代では 37.4%と特に高く、男性 50 代、女性 40 代も3割前後を占めている。

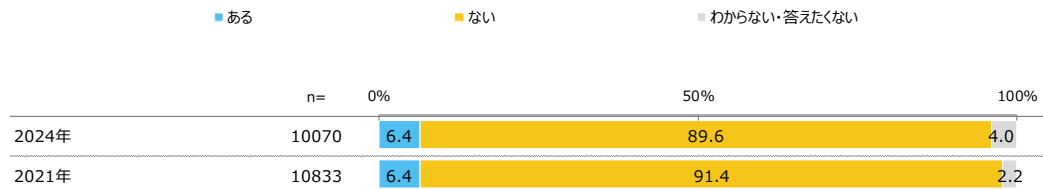


(4)Q10 緑内障の診断経験

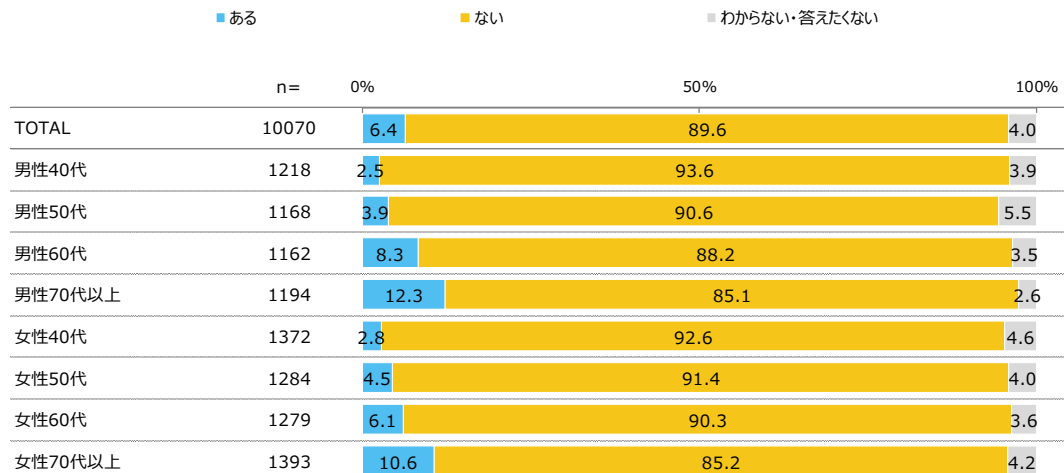
Q10 あなたは、緑内障と診断されたことがありますか。

緑内障と診断されたことがあるのは全体の 6.4%で、男性 70 代以上では 12.3%、女性 70 代以上では 10.6%である。

2021 年調査と比較すると、緑内障と診断されたことが、「ある」割合に差がない。



性・年代別で見ると、男女とも年代が上がるにつれ、緑内障と診断された割合は高くなっている。



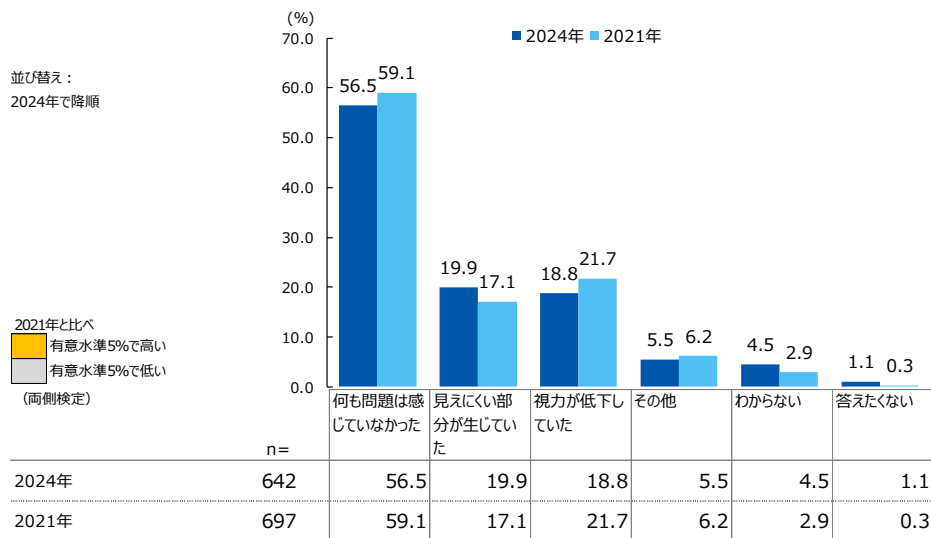
(5) Q10-1 緑内障診断時の症状有無

Q10_1 緑内障の診断を受けたとき、ご自身で症状に気付いていましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

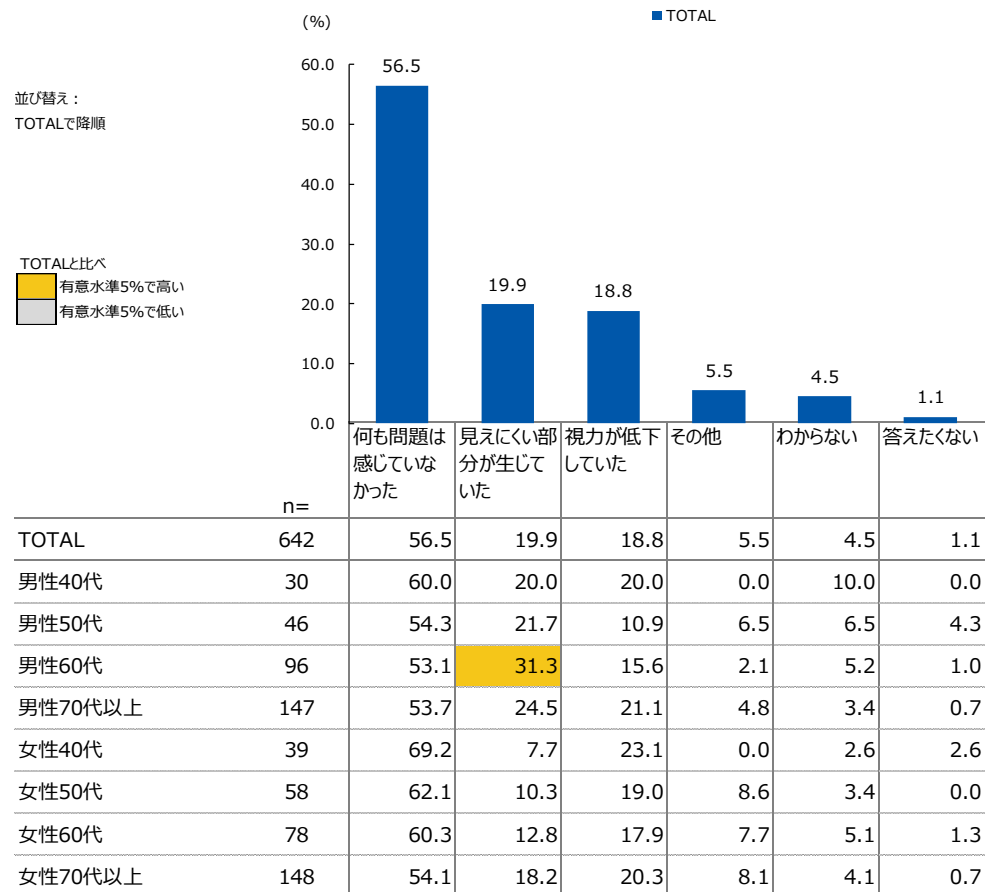
【対象: Q10 で緑内障と診断されたと回答した人】

緑内障の診断を受けたときの状態としては、「何も問題は感じていなかった」が最も高く、56.5%。
「見えにくい部分が生じていた」19.9%、「視力が低下していた」18.8%が続く。

2021 年調査と比較し、有意な差は見られない。



性・年代別で見ると、男性 60 代で「見えにくい部分が生じていた」が 31.3%と他の性・年代より高くなっている。

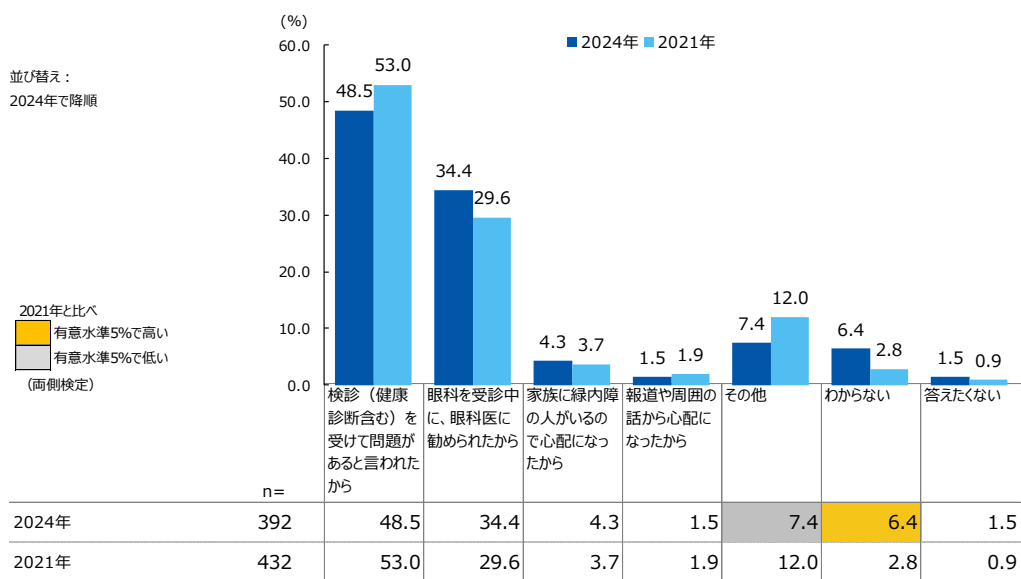


(6) Q10-2 症状を感じていなくても眼科を受診した理由

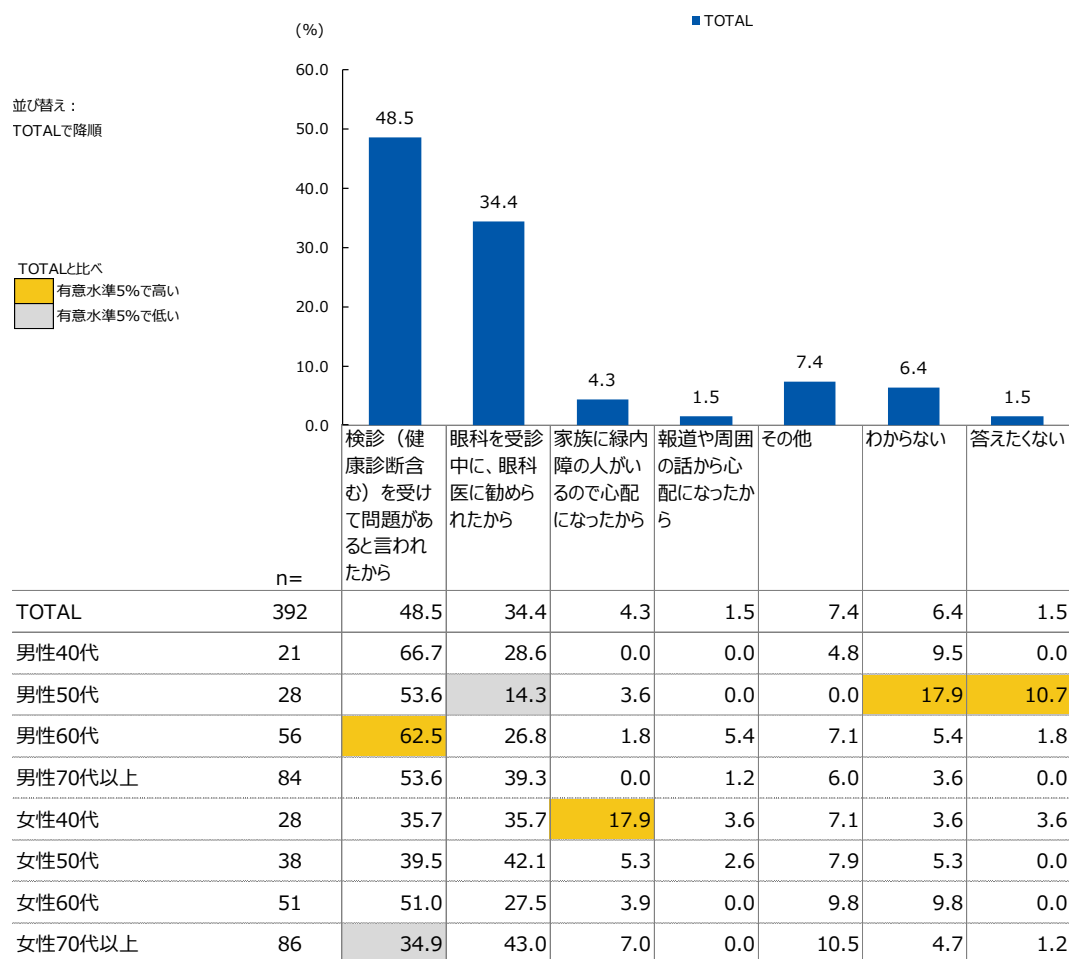
Q10_2 あなたが、緑内障と診断された眼科を受診した理由として、あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)【対象: Q10-1 で何も問題は感じていなかったと回答した人】

緑内障と診断された眼科を受診した理由は、「検診を受けて問題があると言われたから」が最も高く、48.5%。「眼科を受診中に、眼科医に勧められたから」34.4%、「家族に緑内障の人がいるので心配になったから」4.3%が続く。

2021 年調査と比較し、主な受診理由で有意な差は見られない。



性・年代別に見ると、男性は「検診を受けて問題があると言われたから」をあげる割合が高く、女性には「眼科を受診中に、眼科医に勧められたから」の割合が高い。

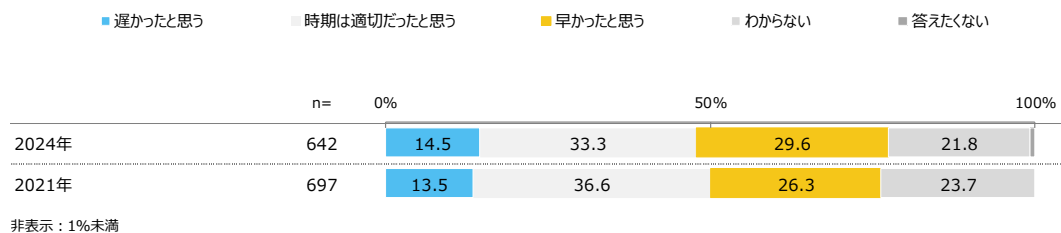


(7)Q10-3 緑内障の診断を受けた時期の認識

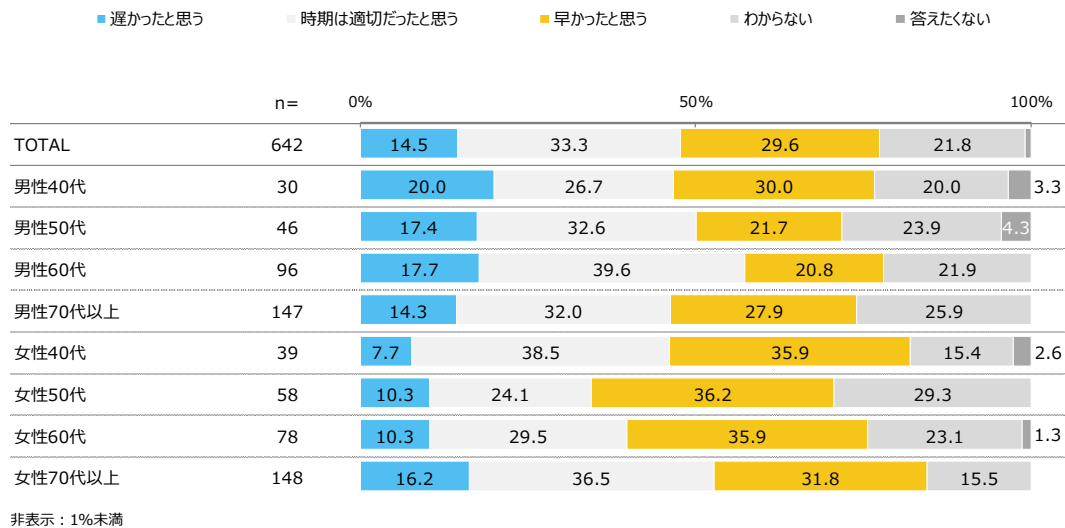
Q10_3 緑内障の診断を受けた時期について、あなたの考えに近いものをお選びください。
 【対象: Q15 で緑内障と診断されたことがあると回答した人】

緑内障の診断時期について「時期は適切だったと思う」が最も高く、33.3%。「早かったと思う」29.6%が続く。14.5%は「遅かったと思う」と回答している。

2021 年調査と比較し、有意な差は見られない。



性・年代別に見ると、男性 60 代では「早かったと思う」が 20.8%と、他の年代よりもやや低い割合である。



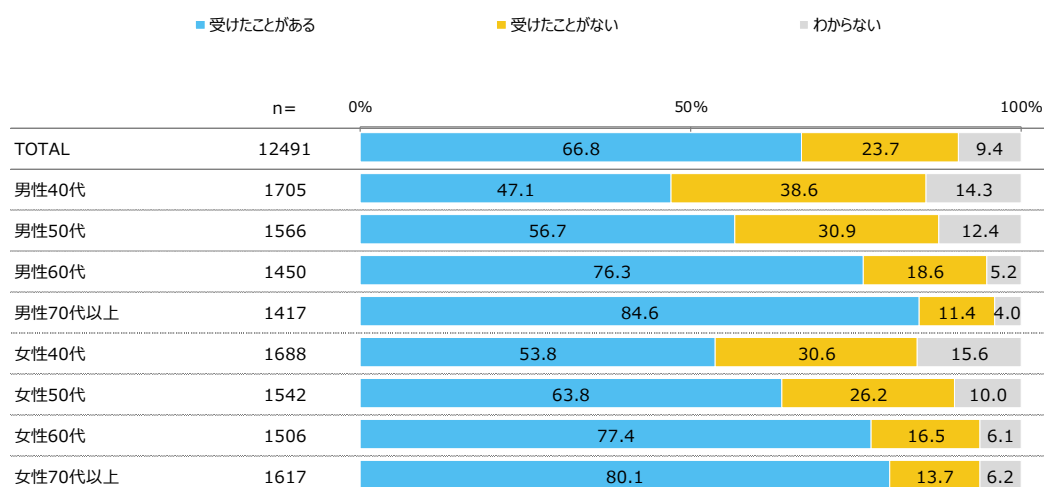
3. 3 眼底検査に関する認知

(1)Q11 眼底検査の受診経験

Q11 あなたは、眼底検査を受けたことがありますか。

眼底検査の受診について、「受けたことがある」が最も高く、66.8%。「受けたことがない」23.7%、「わからない」9.4%が続く。

性・年代別に見ると、男女とも年代が上がるにつれ、受診経験は高くなっており、40代では5割前後に対し、70代以上では8割以上となっている。



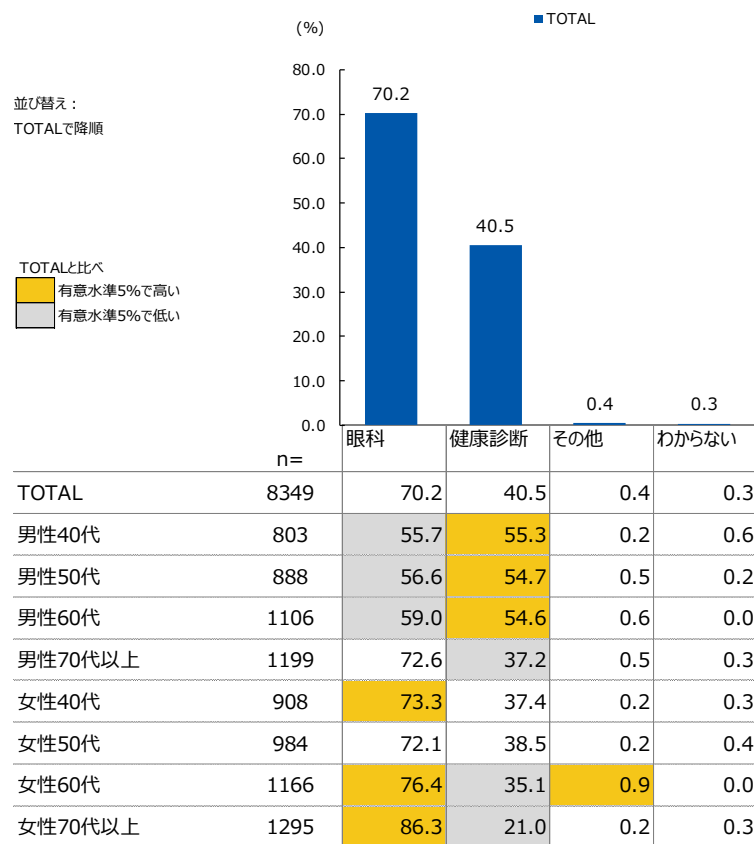
(2)Q12 眼底検査を受けた場所

Q12 眼底検査はどこで受けましたか。(複数回答)

【対象:Q11 で眼底検査を受けたことがあると回答した人】

眼底検査を受けた場所については、「眼科」が最も高く、70.2%。「健康診断」40.5%が続く。

性・年代別に見ると、男性では70代以上を除き、「眼科」「健康診断」がともに5～6割に対し、女性では「眼科」が7割以上と高く、70代を除き「健康診断」の倍程度となっている。

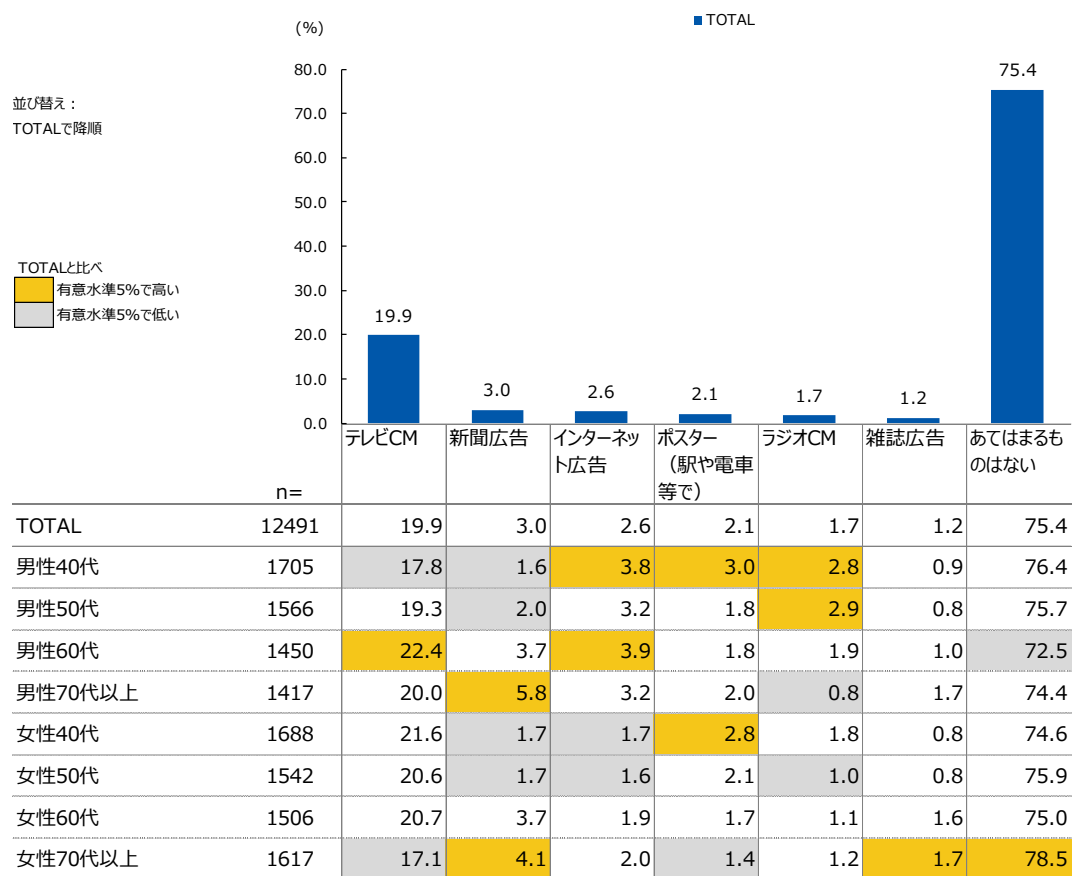


(3) Q13 眼底検査に関する広告媒体の認知状況

Q13 あなたは眼底検査に関するテレビ・ラジオ CM やポスターを過去 1 年以内に見たことがありますか。(複数回答)

眼底検査に関するテレビ・ラジオ CM やポスターについて、何らか見た割合は 24.6%と約 4 人に 1 人である。見た広告媒体では「テレビ CM」が最も高く、19.9%。「新聞広告」3.0%、「インターネット広告」2.6%と続き、「ラジオ CM」は 1.7%である。

性・年代別で見ると、「テレビ CM」は男性 60 代が最も高い。「インターネット広告」は女性より男性の方が高い。「ラジオ CM」も 70 代以上を除き、女性より男性の方が高い。

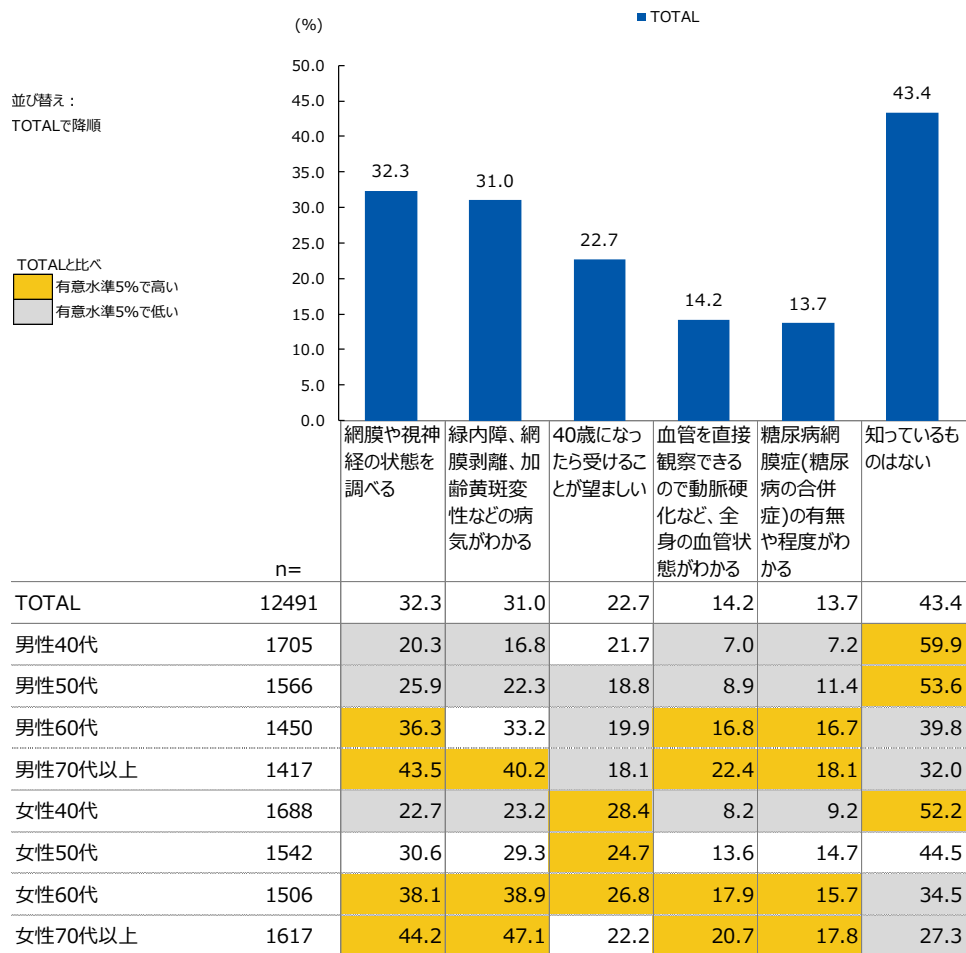


(4)Q14 眼底検査の認知内容

Q14 以下の眼底検査の特徴のうち、あなたがご存じのものをすべてお選びください。(複数回答)

眼底検査の特徴について、何らか知っている人は 56.6%。認知内容としては、「網膜や視神経の状態を調べる」が最も高く、32.3%。「緑内障、網膜剥離、加齢黄斑変性などの病気がわかる」31.0%、「40 歳になったら受けることが望ましい」22.7%と続く。「知っているものはない」は 43.4%である。

性・年代別で見ると、「40 歳になったら受けることが望ましい」を除き、男女ともに年代が上がるにつれ、認知度が高くなっている。

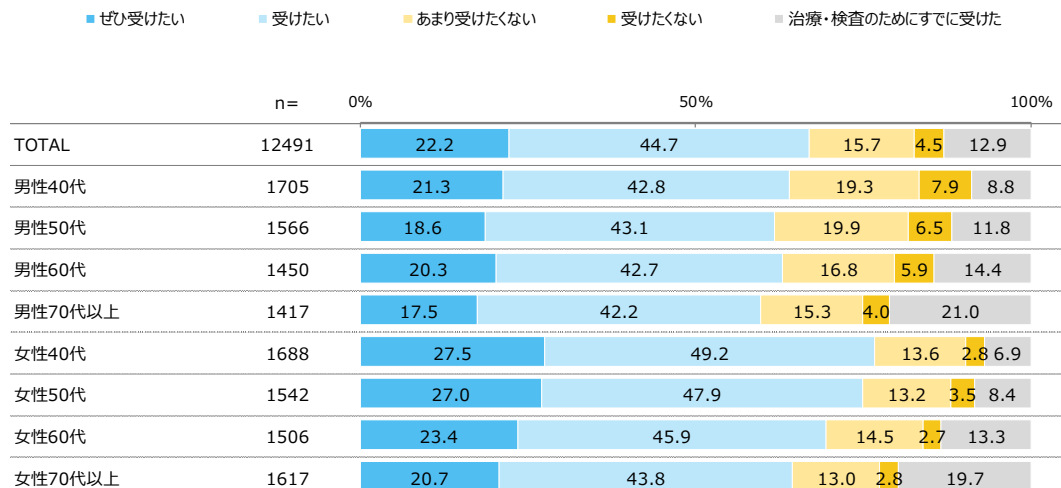


(5) Q15 眼底検査の受診意向

眼底検査は、視力検査では発見できない、緑内障や網膜などの病気を発見することができます。
Q15 あなたは、今後、眼底検査を受けたいと思いますか。

眼底検査の受診意向について、「ぜひ受けたい」が 22.2%、「受けたい」が 44.7%である。全体の 66.9%に眼底検査の受診意向が見られる。

性・年代別で見ると、女性では年齢が上がるにつれ、受診意向は低くなっているものの、40代では 76.7%、50代では 74.9%と非常に高くなっている。男性では年代により大きな差は見られないものの、男女とも「治療・検査のためにすでに受けた」割合は年代ともに高くなっており、70代以上では2割前後となっている。



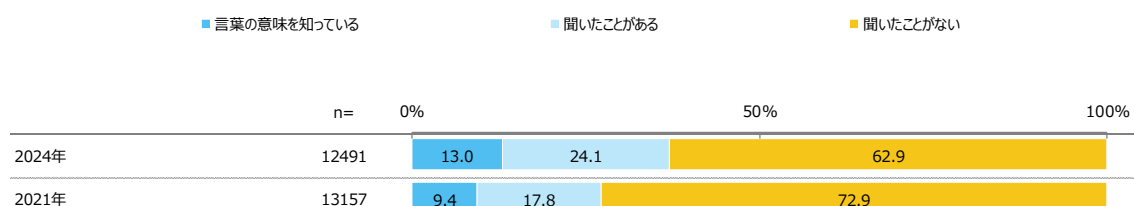
3. 4 アイフレイルの認知

(1)Q16 フレイルの認知

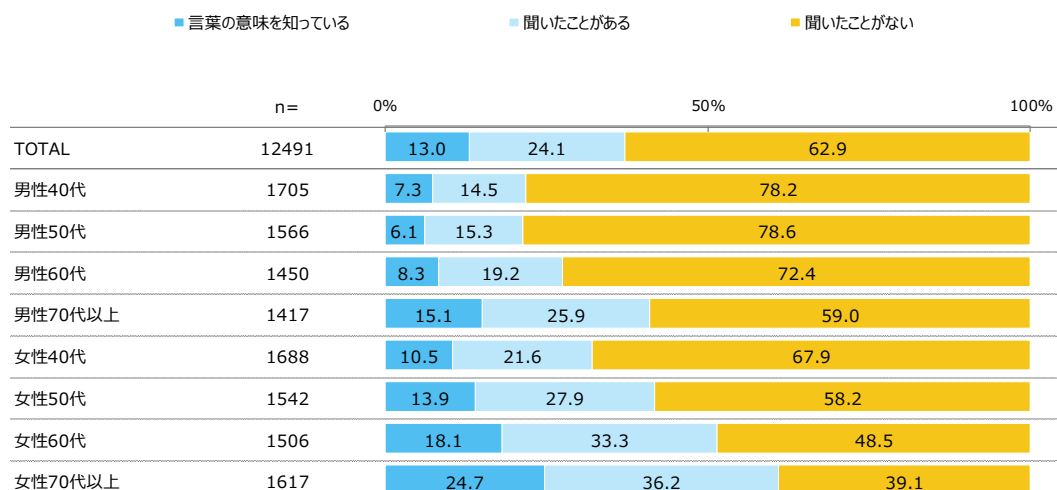
Q16 あなたはフレイルという言葉を知っていますか。

フレイルについて「言葉の意味を知っている」が 13.0%、「聞いたことがある」が 24.1%で、「聞いたことがない」は 62.9%である。

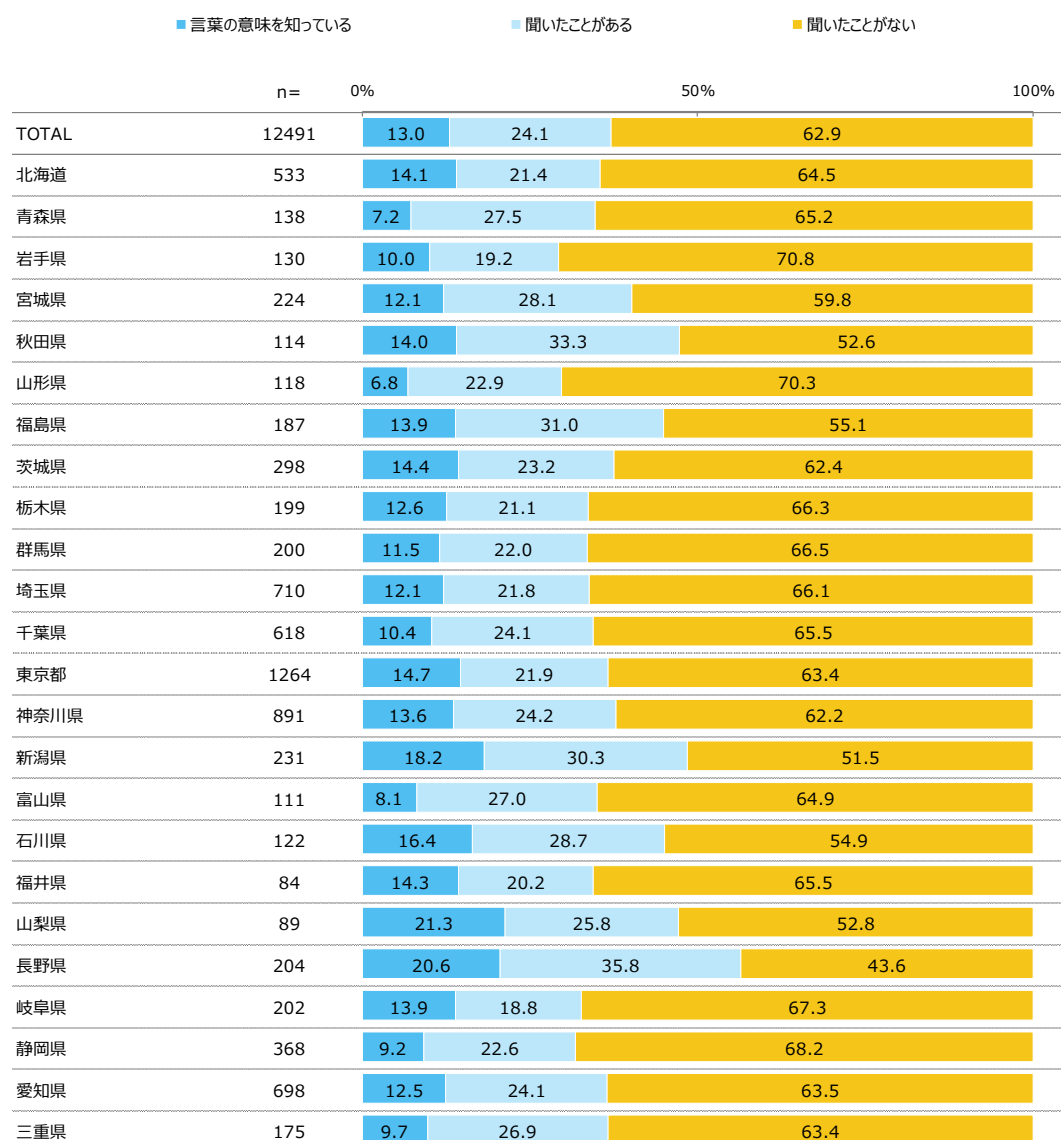
2021 年調査と比較すると、「言葉の意味を知っている」は約3ポイント増加し、「聞いたことがない」は 10 ポイント低下した。

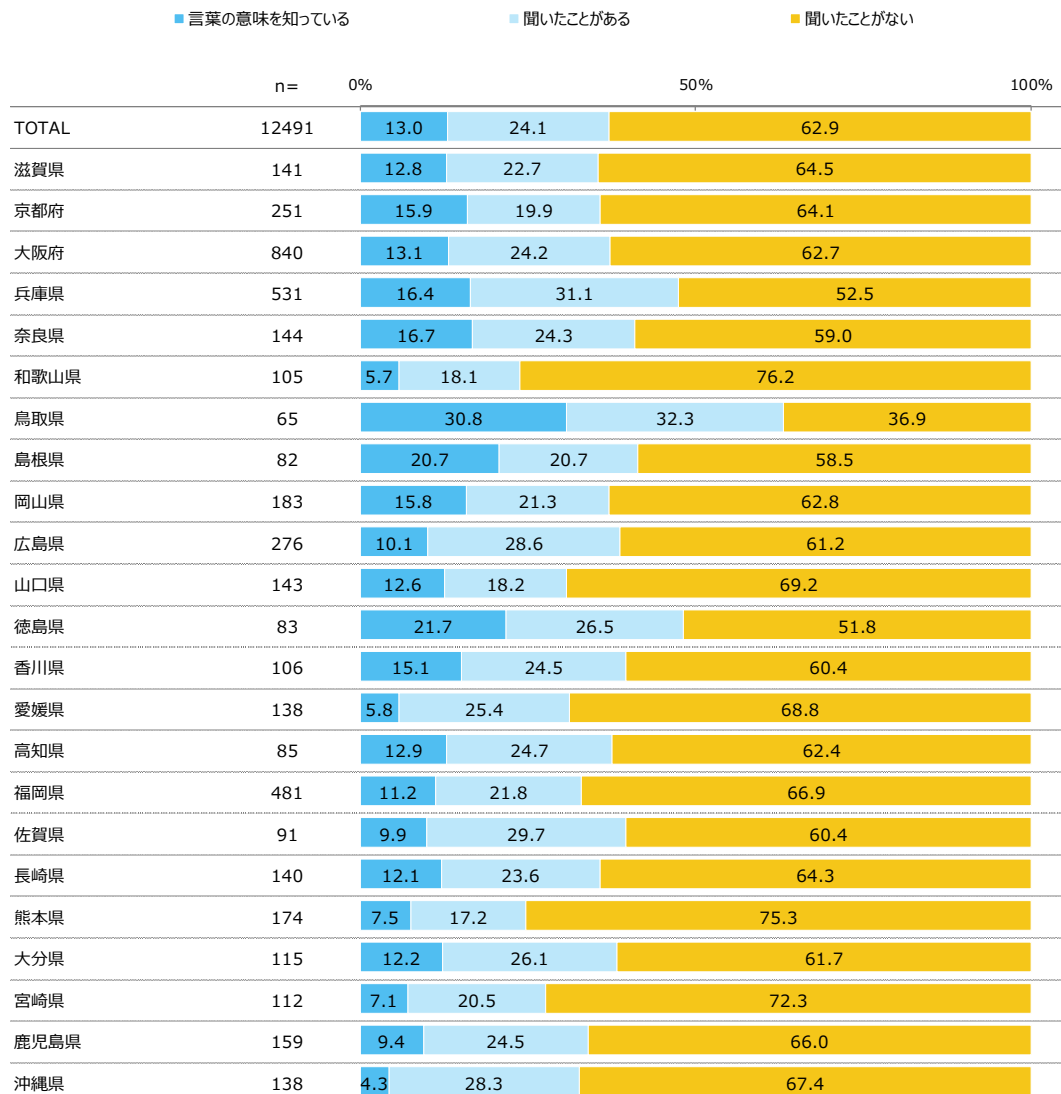


男女ともに年代が高くなるにつれて認知度も高くなる傾向にあるが、最も認知度の高い女性 70 代以上でも約4割(39.1%)は「聞いたことがない」と回答している。



都道府県別の結果は以下のとおりである。和歌山県(76.2%)、熊本県(75.3%)、宮崎県(72.3%)、山形県(70.3%)は「聞いたことがない」との回答が7割以上を占める。最も認知度が高いのは鳥取県で、30.8%は「言葉の意味も知っている」と回答している。



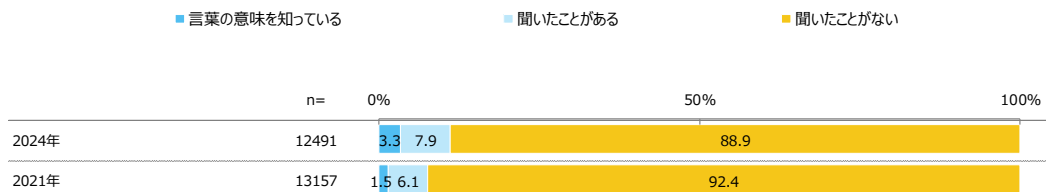


(2)Q17 アイレイルの認知

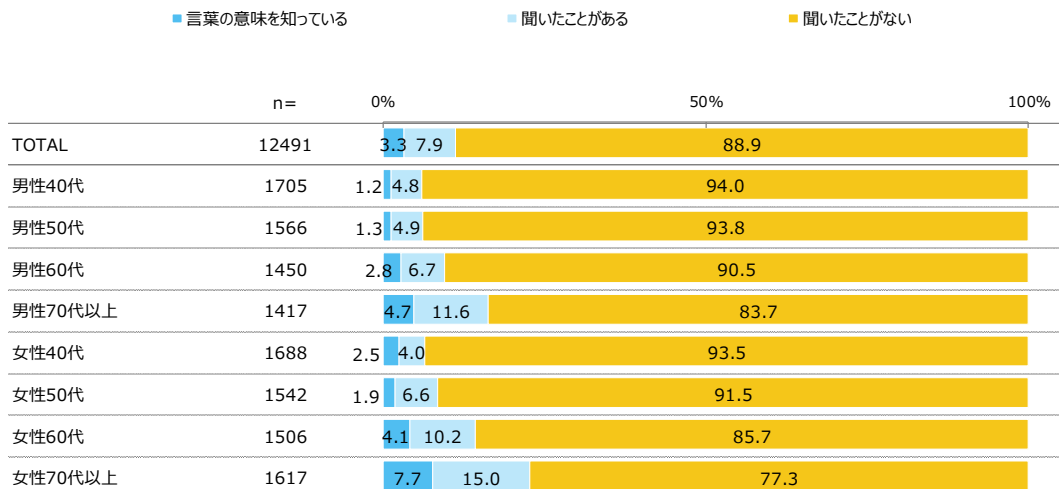
Q17 あなたはアイレイルという言葉を知っていますか。

アイレイルについて、「言葉の意味を知っている」が3.3%、「聞いたことがある」が7.9%、「聞いたことがない」が88.9%である。

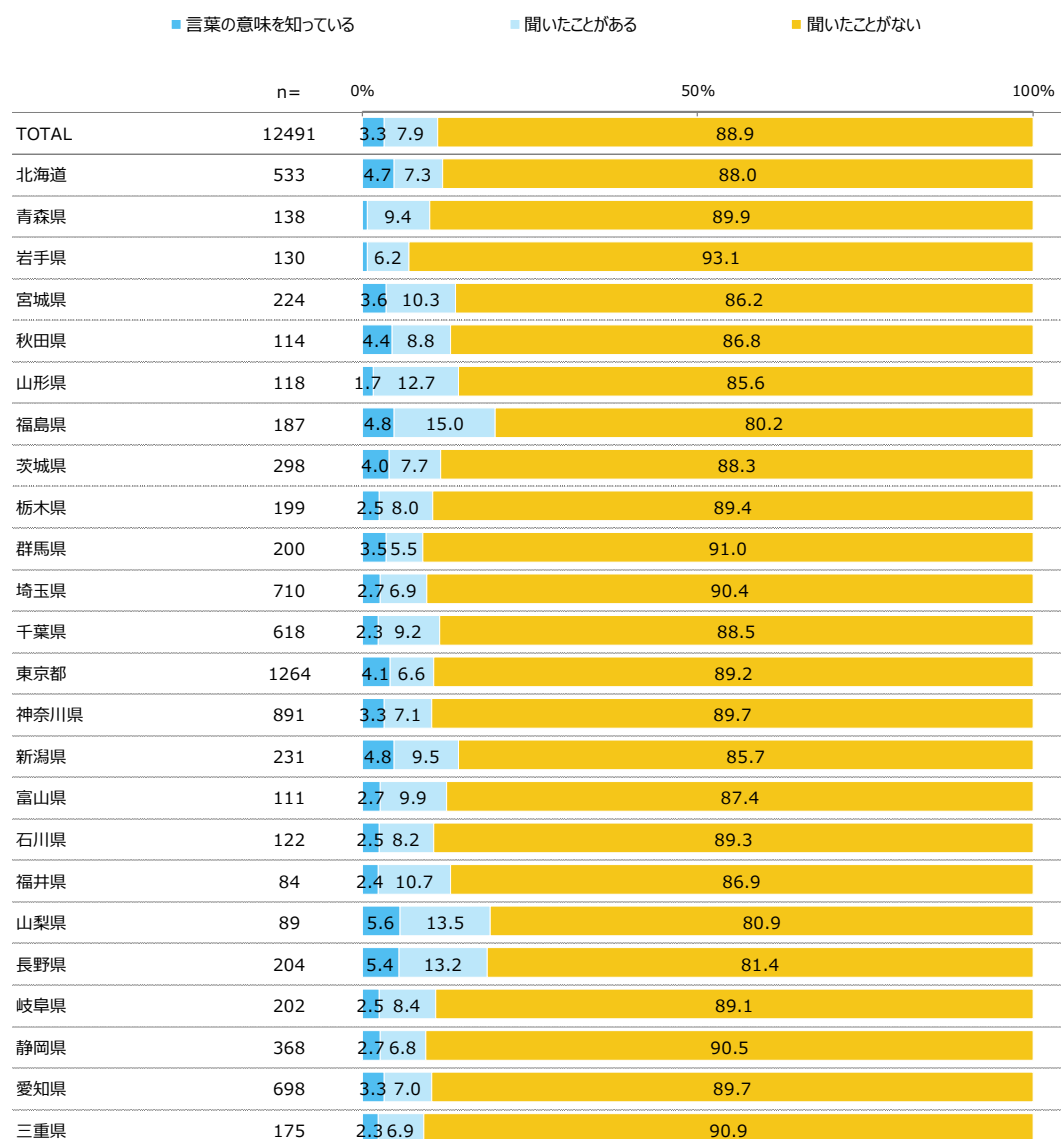
2021年調査と比較すると、「言葉の意味を知っている」は約2倍に増加し、「聞いたことがない」は3ポイント低下した。



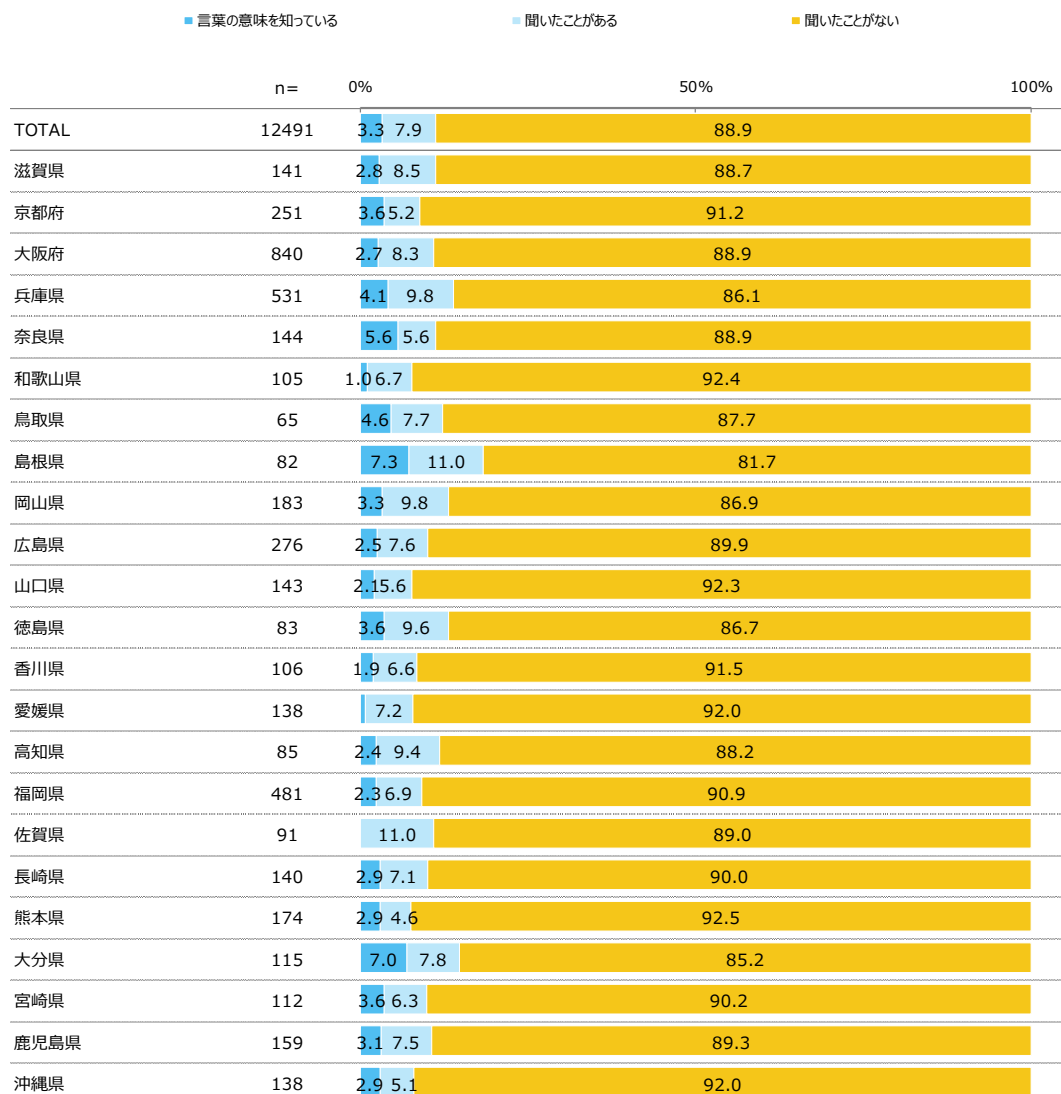
男性 40～60 代と女性 40～50 代では「聞いたことがない」が 9 割以上であり、低い認知度となっている。



都道府県別の結果は以下のとおりである。福島県、山梨県、長野県、島根県は他の都道府県より認知割合が高く、「聞いたことがない」が8割程度である。その他の都道府県については、いずれも9割前後は「聞いたことがない」と回答している。最も認知度が高いのは福島県で、「言葉の意味も知っている」が最も高いのは島根県(7.3%)となっている。



非表示：1%未満



非表示：1%未満

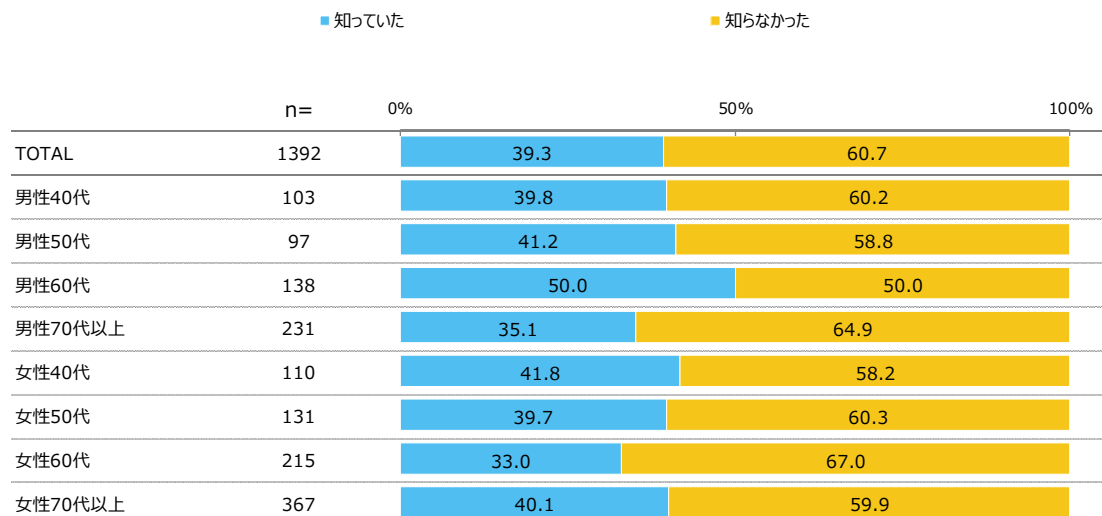
(3)Q18 アイフレイルの意味の認知

Q18 「アイフレイル」は、病気の手前で「加齢に伴う目の機能低下」です。あなたは、知っていましたか。

【対象:Q17 でアイフレイルという「言葉の意味を知っている」「聞いたことがある」と回答した人】

アイフレイルが病気の手前で「加齢に伴う目の機能低下」であることを「知っていた」が 39.3%、「知らなかった」が 60.7%である。

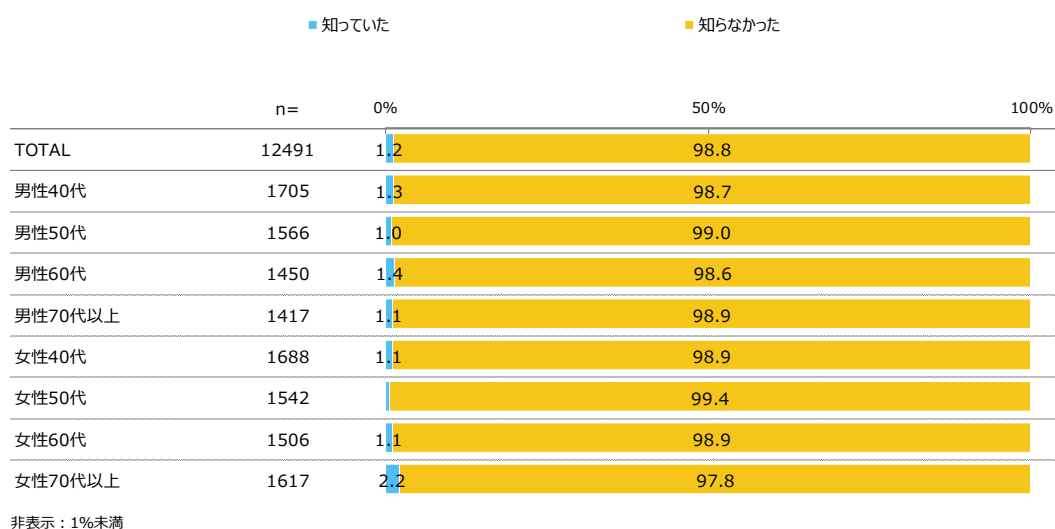
男性 60 代では「知っていた」が 50%と、他の性・年代より高い。



(4)Q19 アイフレイルチェックシートの認知

Q19 「アイフレイル」は、病気の手前で「加齢に伴う目の機能低下」です。
あなたは、アイフレイルを 10 項目でセルフチェックする「アイフレイルチェックシート」があることを
知っていましたか？

アイフレイルチェックシートについて、「知っていた」が 1.2%、「知らなかった」が 98.8%である。
女性 70 代以上では「知っていた」が 2.2%と他の性・年代より高い。

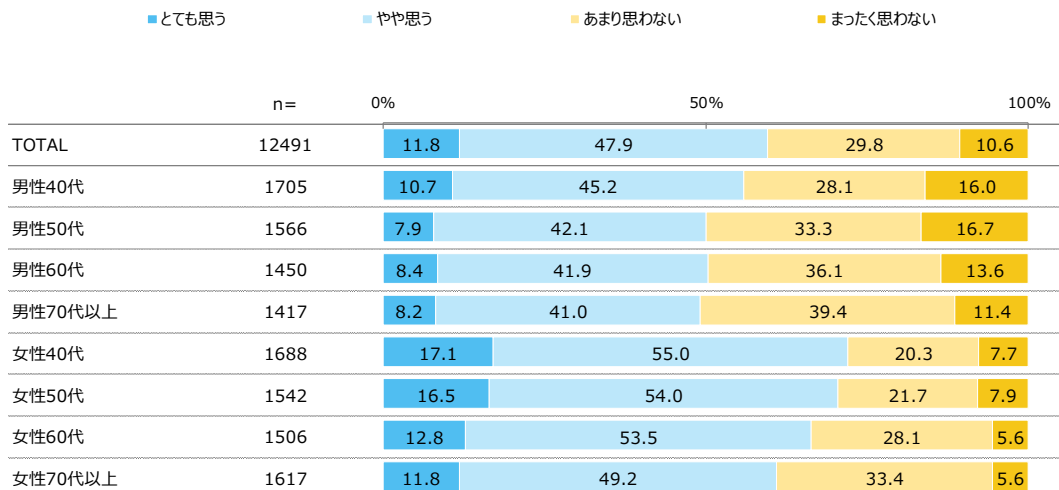


(5) Q20 アイフレイルのセルフチェックの意向

Q20 あなたは「アイフレイル」のセルフチェックをしたいと思いますか。

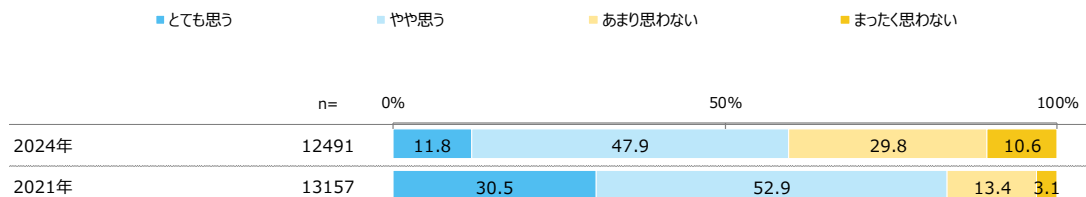
アイフレイルのセルフチェックの意向について、「とても思う」が 11.8%、「少し思う」が 47.9%である。全体の 59.6%にアイフレイルのセルフチェックの意向が見られる。

性・年代別に見ると、男性よりも女性のセルフチェックの意向が高い。男女ともに 40 代が最も高く、女性 40 代で 72.0%、男性 40 代で 55.9%である。最もセルフチェックの意向が低いのは男性 70 代以上で、49.2%である。



<参考>

・前回調査では「あなたは、「アイフレイル」の予防をしたいと思いますか。」として聴取

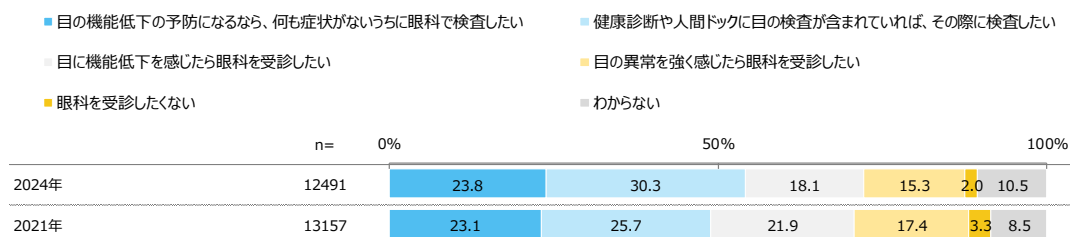


(6)Q21 目の検査や治療に関する考え

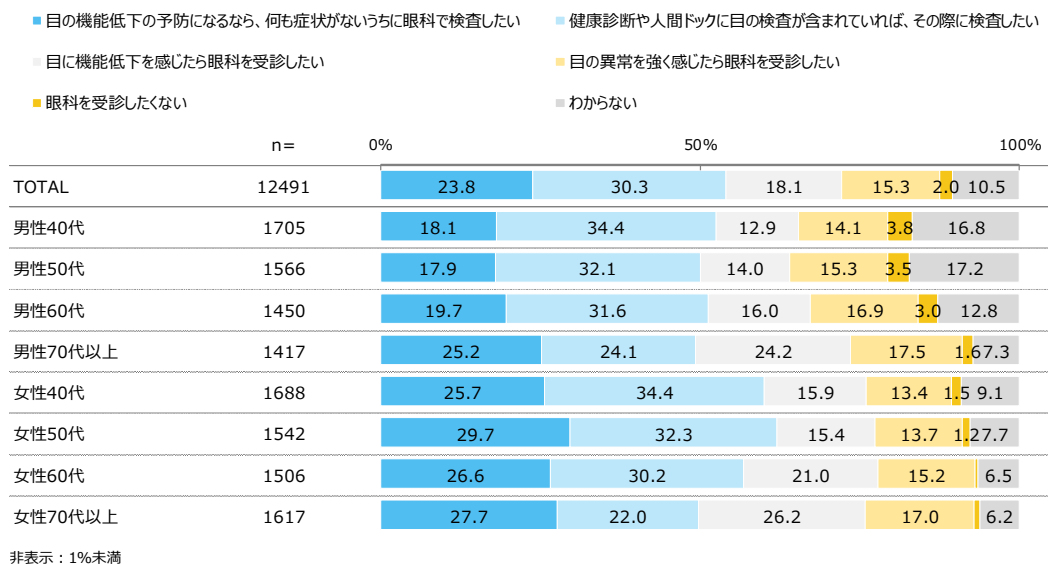
Q21 目の検査や治療に対するあなたの考えで最も近いものをお選びください。

目の検査や治療についての考えは、「健康診断や人間ドックに目の検査が含まれていれば、その際に検査したい」が最も高く、30.3%。「目の機能低下の予防になるなら、何も症状がないうちに眼科で検査したい」23.8%、「目に機能低下を感じたら眼科を受診したい」18.1%が続く。

2021 年調査と比較すると、「健康診断や人間ドックに目の検査が含まれていれば、その際に検査したい」は約 5 ポイント増加した。



男女ともに 70 代以上を除き「健康診断や人間ドックに目の検査が含まれていれば、その際に検査したい」という意向が最も高い。また、男性よりも女性の方が、「目の機能低下の予防になるなら、何も症状がないうちに眼科で検査したい」と早期の受診意向が高い傾向にある。男性 40～60 代は他の性・年代に比べて「眼科を受診したくない」「わからない」の割合が高い。

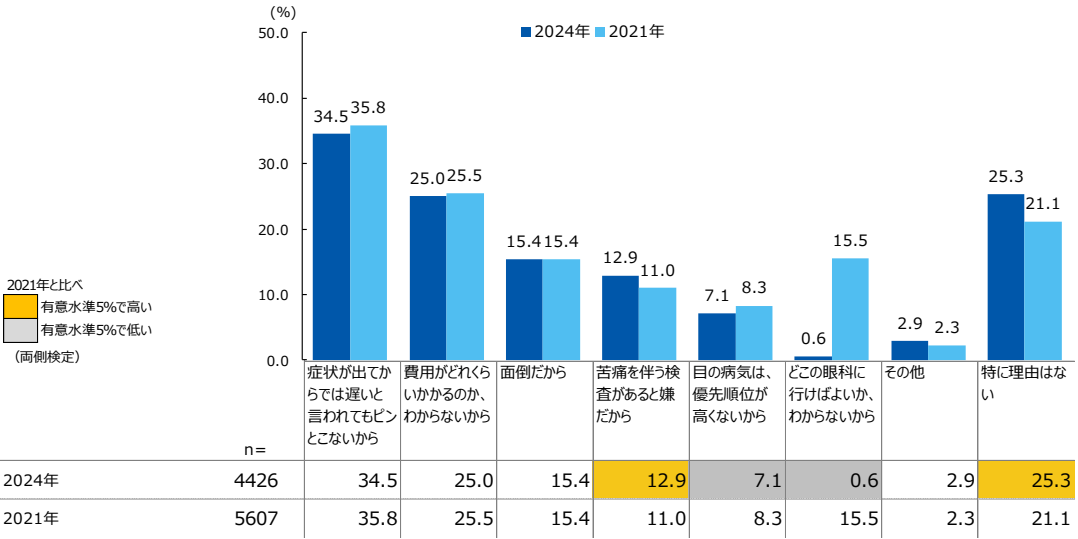


(7)Q21-1 すぐに目の検査や治療を受けない理由

Q21_1 あなたは前問で【Q21 の回答引用】とお答えになりました。その理由としてあてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)【Q21 で早期受診以外の回答をした人】

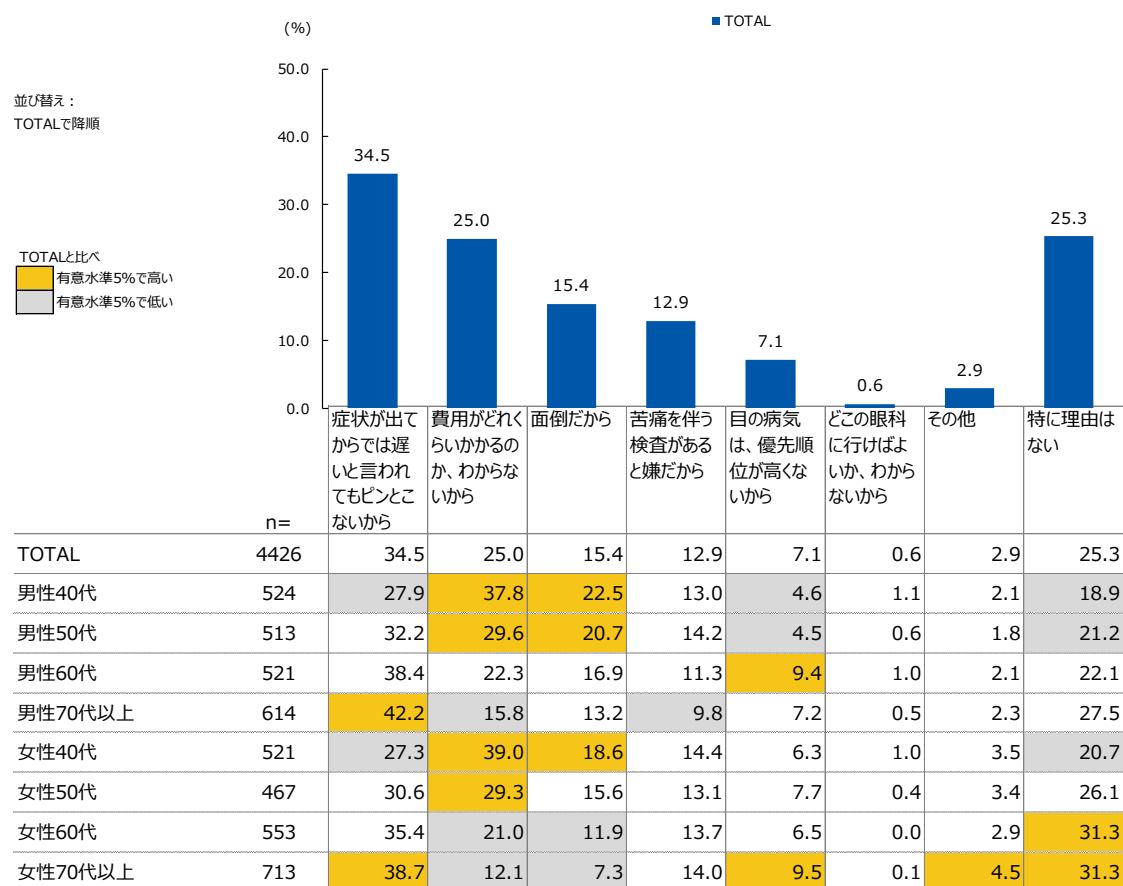
すぐに目の検査や治療を受けない理由は「症状が出てからでは遅いと言われてもピンとこないから」が最も高く、34.5%。「費用がどれくらいかかるのか、わからないから」25.0%、「面倒だから」15.4%が続く。

2021 年調査と比較すると、上位項目の傾向は変わらず、「特に理由はない」が約 4 ポイント増加している。



※2024 年調査は「どこの眼科に行けばよいか、わからないから」は前問で「眼科を受診したくない」回答者のみ聴取

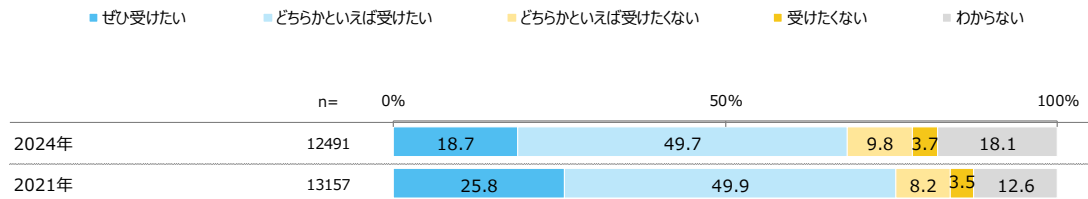
性・年代別に見ると、男女ともに 40 代は「費用がどれくらいかかるのか、わからないから」が最も高い。また男性 40～50 代、女性 40 代は「面倒だから」をあげる理由が他の年代よりも高く、男女とも 70 代以上では「症状が出てからでは遅いと言われてもピンとこないから」が他の年代より高くなっている。



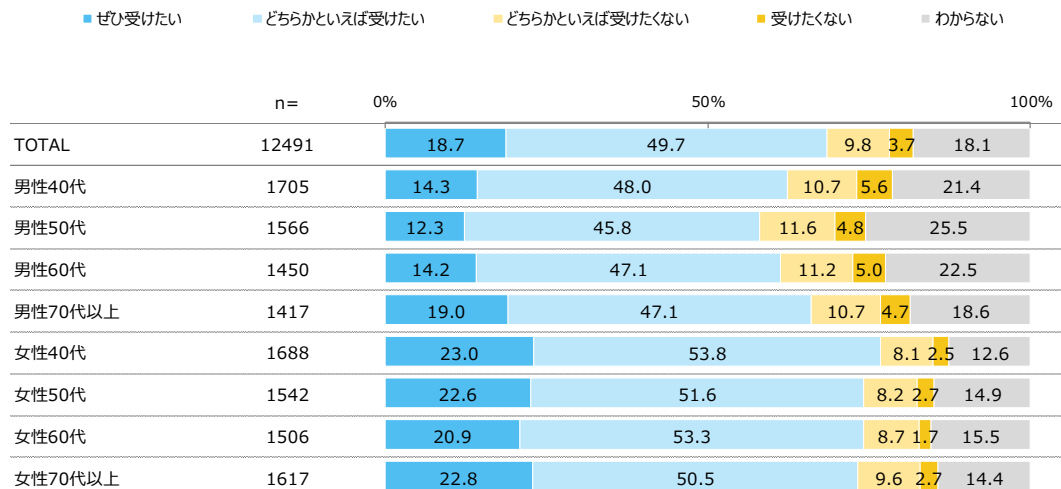
(8)Q22 アイフレイルの検査受診意向

Q22 アイフレイルの検査では、以下のようなことをします。あなたは受けてみたいですか。すでに検査を受けたことがある人は、今後また受けてみたいかをお答えください。

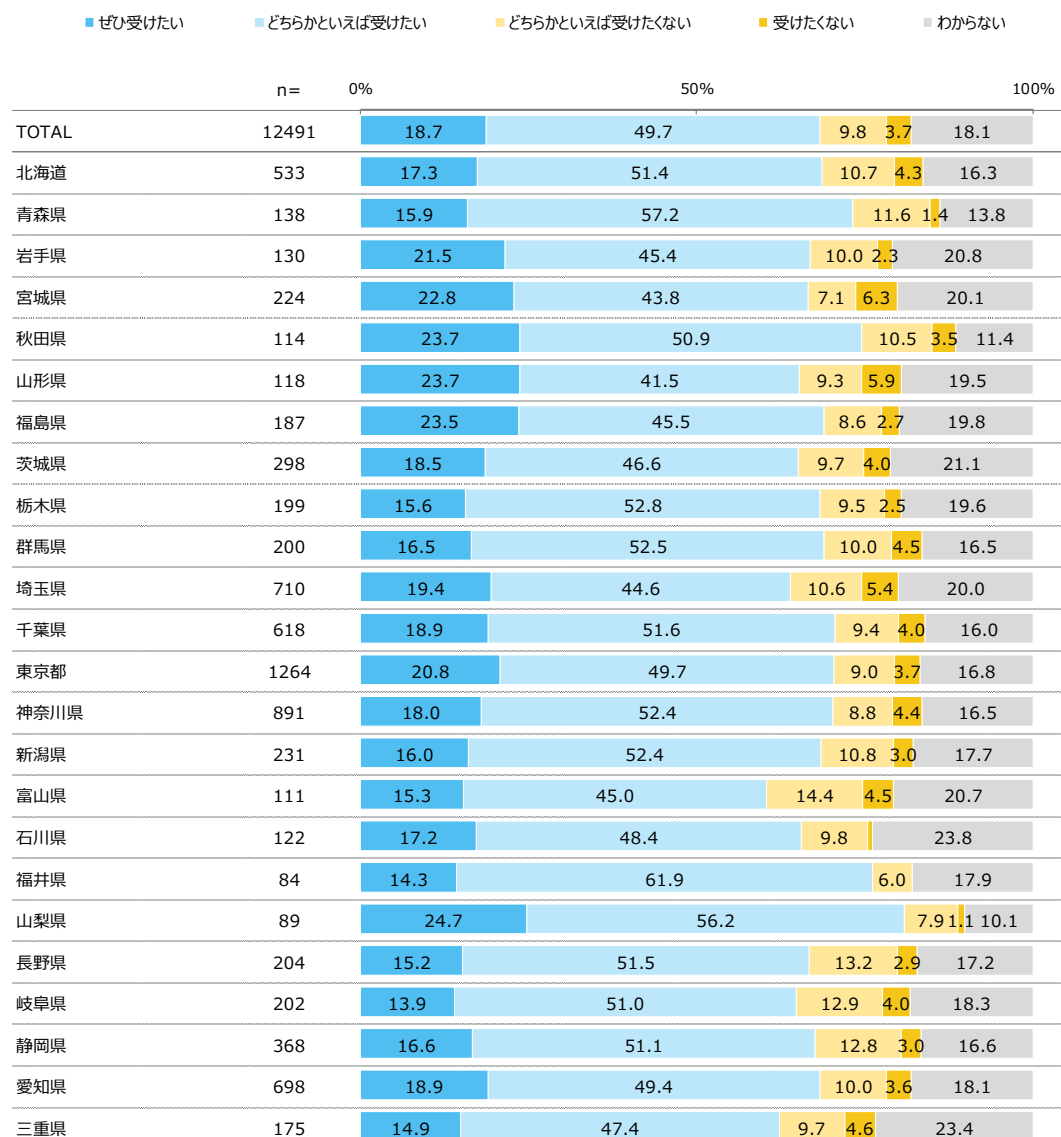
アイフレイルの検査の受診意向は、「ぜひ、受けたい」が 18.7%、「どちらかといえば受けたい」が 49.7%で、全体の 75.7%に受診意向がある。



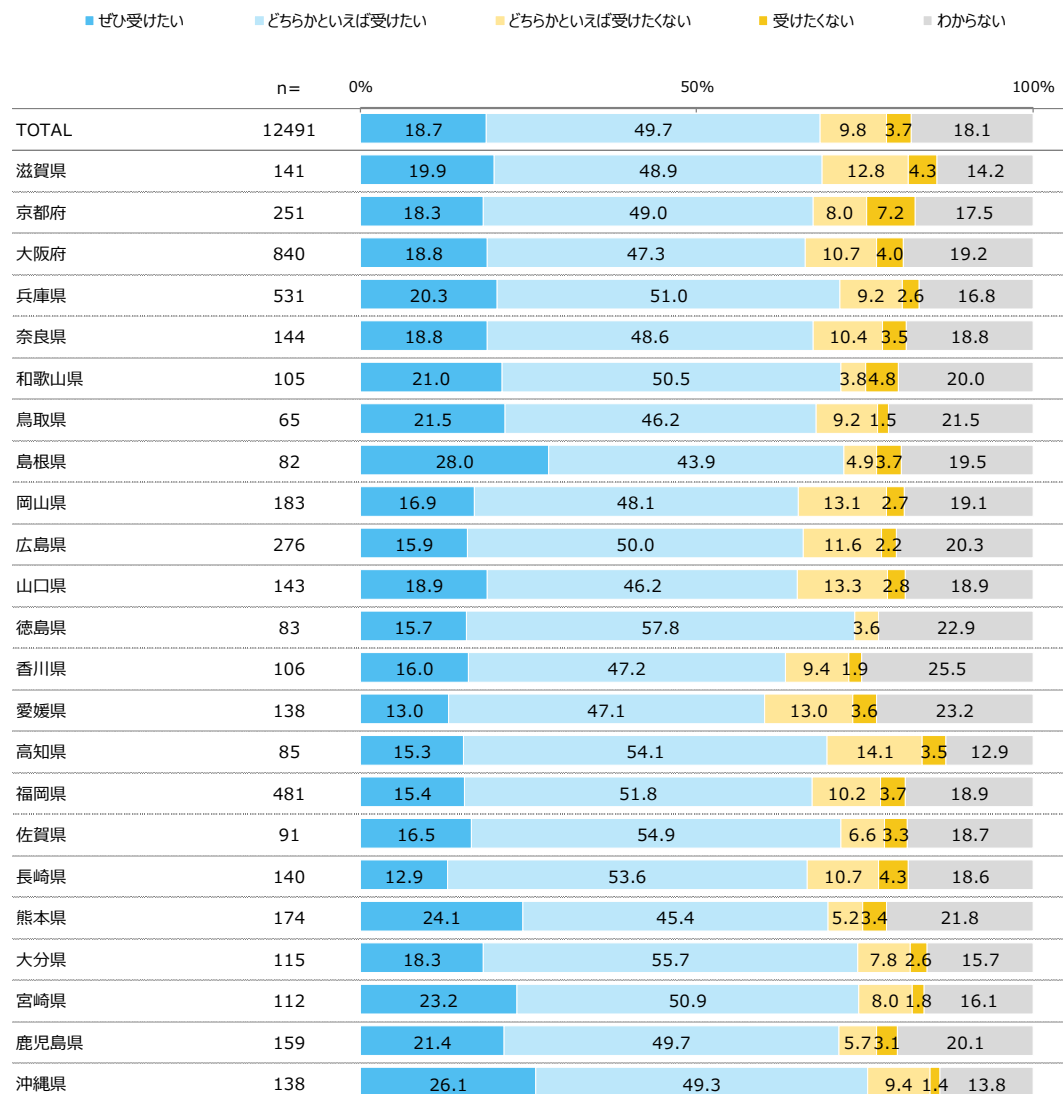
性・年代別に見ると、男性よりも女性の受診意向が高く、いずれの年代でも 8 割前後は受診意向を示している。受診意向が最も低いのは男性 50 代で 58.2%、次いで男性 60 代で 61.3%である。



都道府県別の結果は以下のとおりである。都道府県によって受診意向には差が見られ、受診意向が最も高いのは山梨県(80.9%)、最も低いのは愛媛県(60.1%)である。

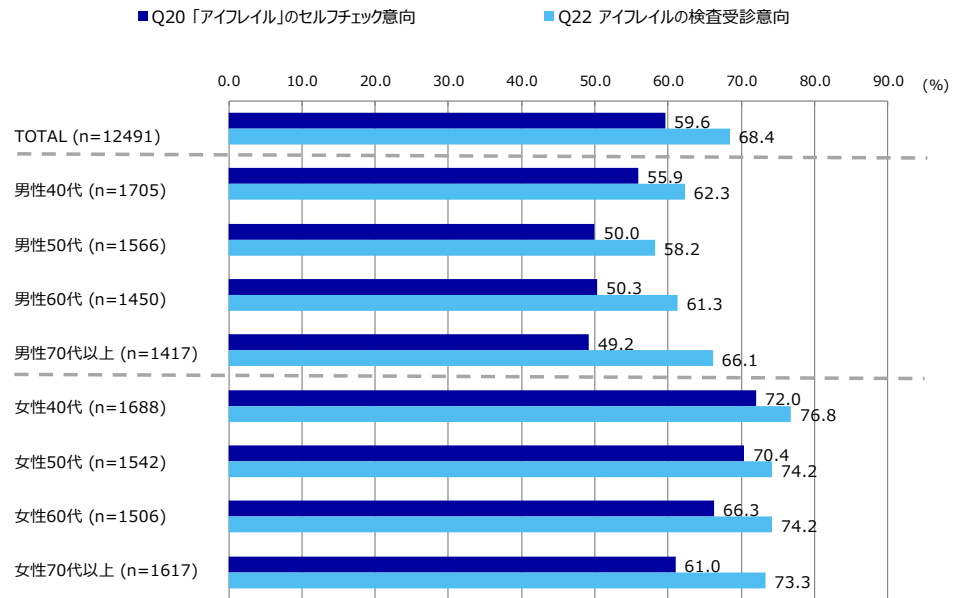


非表示：1%未満



非表示：1%未満

アイフレイルのセルフチェック意向、検査の受診意向を比較したのが以下のグラフである。
各年代とも男性より女性の方が、アイフレイルのセルフチェック・検査受診意向ともに高い。



※Q20（アイフレイルのセルフチェック意向）については「とても思う」＋「やや思う」、
Q22（アイフレイル検査受診意向）については「ぜひ、受けたい」＋「どちらかといえば受けたい」の割合を表示している。

3. 5 眼底検査に関するテレビ CM の認知

(1) Q23 眼底検査に関するテレビ CM の認知

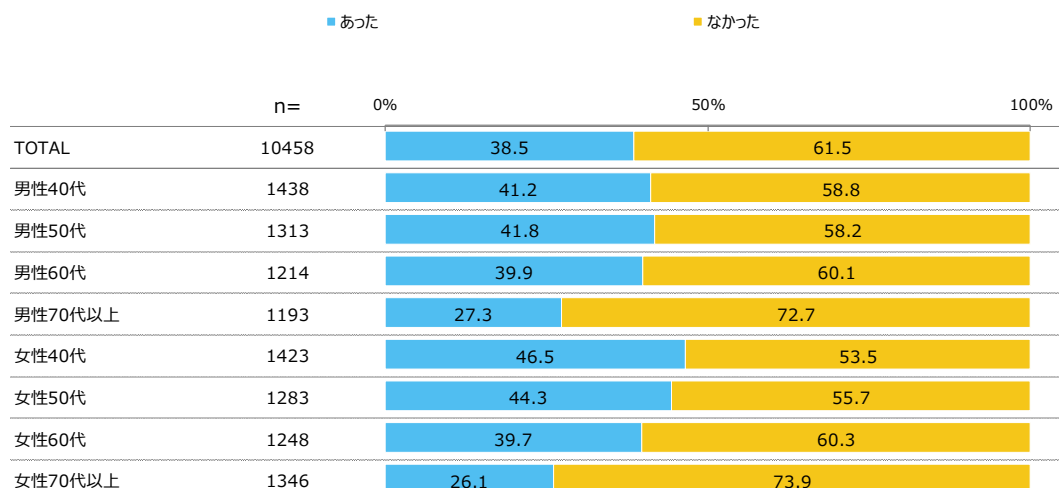
Q23 あなたは今見ていただいた眼底検査に関するテレビ CM をこの調査の前までに見たことがありましたか。

動画呈示に関する調査は、調査モニターに対するバイアスを回避する必要があることから、実施可能なサンプル規模が1万サンプル未満となっている。

そのため、本調査の回答者のうち、ランダムに1万人を抽出し、動画を提示したうえで、認知等を調査した。

眼底検査に関するテレビ CM の視聴は、「あった」が38.5%、「なかった」が61.5%となっている。

性・年代別に見ると、男女とも70代以上はCMの視聴が「あった」割合が3割未満と低い。女性では年代が上がるにつれ、CMの視聴経験は低下し、女性40代は46.5%に対し、70代以上では20ポイント以上低下している。一方、男性では70代以上を除き、年代による差は小さく、CMの視聴が「あった」割合は4割前後となっている。



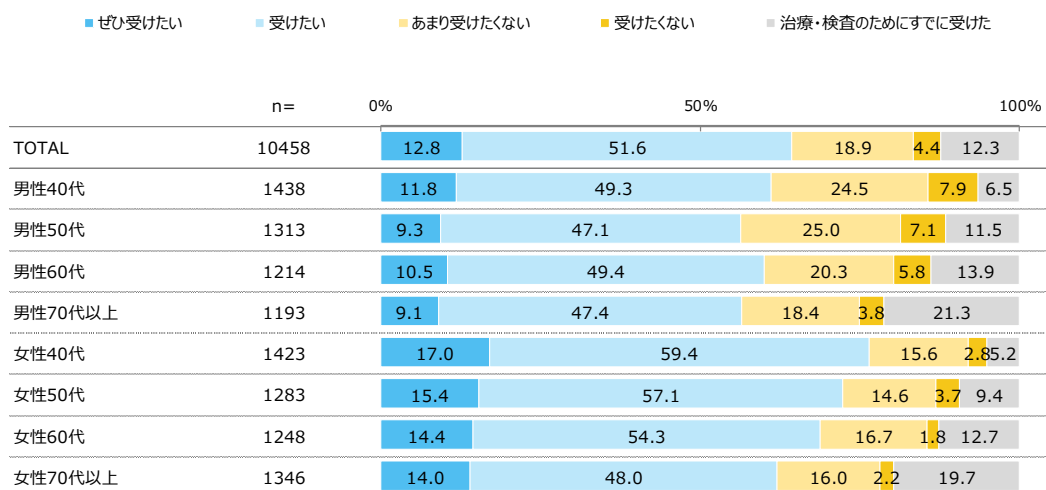
(2)Q24 テレビ CM 視聴後の目の検診の受診意向

Q24 あなたは、眼底検査に関するテレビ CM やラジオ CM を見聞きして、定期的に目の検診を受けようと思いましたか。

CM 視聴等による定期的な目の検診の受診意向は、「ぜひ受けたい」が 12.8%、「どちらかといえば受けたい」が 51.6%で、全体の 64.4%に受診意向がある。

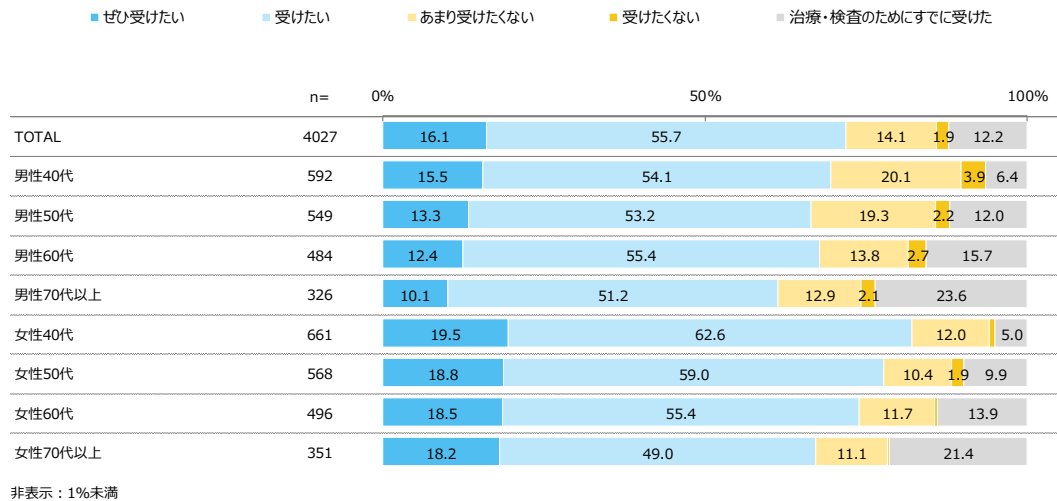
性・年代別に見ると、どの年代も男性よりも女性の受診意向が高い。

受診意向が最も高いのは女性 40 代で 76.4%、次いで女性 50 代で 72.4%。一方、受診意向が最も低いのは男性 50 代で 56.4%、次いで男性 70 代以上で 56.6%である。

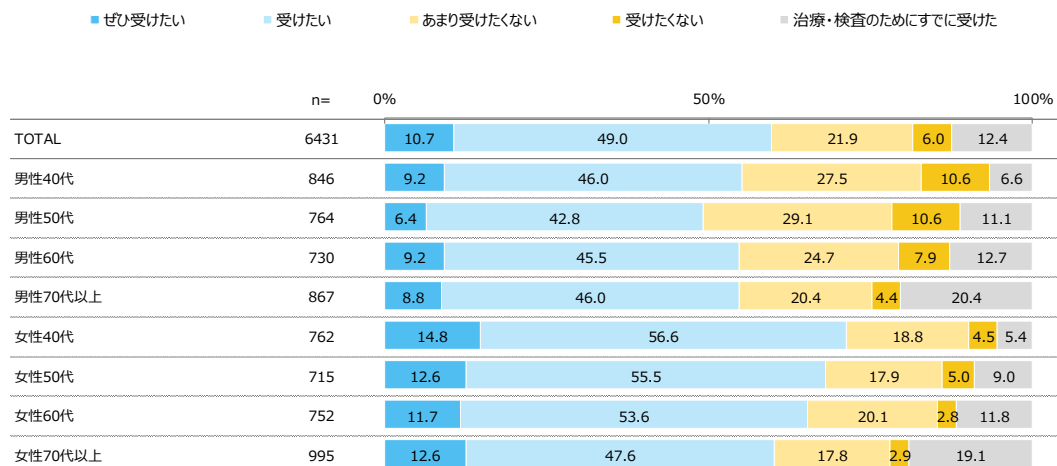


Q23 で眼底検査に関するテレビ CM を見たことがあったと回答した人となかった人について、それぞれ性・年代別に見たのが以下のグラフである。テレビ CM を見たことがあった人の方がどの年代も検査の受診意向は高い。

【Q23 眼底検査に関するテレビ CM を見たことがあった人】



【Q23 眼底検査に関するテレビ CM を見たことがなかった人】



4. 資料(調査票)

※2021 年調査から微修正の箇所を赤字・網掛け。赤字で聴取した部分は赤字で表記。

F1 あなたの性別をお答えください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

F2 あなたの年齢をお答えください。

() 歳

F3 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

1. 北海道	14. 神奈川県	27. 大阪府	39. 高知県
2. 青森県	15. 新潟県	28. 兵庫県	40. 福岡県
3. 岩手県	16. 富山県	29. 奈良県	41. 佐賀県
4. 宮城県	17. 石川県	30. 和歌山県	42. 長崎県
5. 秋田県	18. 福井県	31. 鳥取県	43. 熊本県
6. 山形県	19. 山梨県	32. 島根県	44. 大分県
7. 福島県	20. 長野県	33. 岡山県	45. 宮崎県
8. 茨城県	21. 岐阜県	34. 広島県	46. 鹿児島県
9. 栃木県	22. 静岡県	35. 山口県	47. 沖縄県
10. 群馬県	23. 愛知県	36. 徳島県	
11. 埼玉県	24. 三重県	37. 香川県	
12. 千葉県	25. 滋賀県	38. 愛媛県	
13. 東京都	26. 京都府		

Q1 以下の中に、現在あなたが健康面で不自由を感じていることはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 歯に関すること	5. 皮膚に関すること
2. 目(視覚)に関すること	6. 足腰(歩行や動作)に関すること
3. 耳(聴覚)に関すること	7. 物忘れに関すること
4. 鼻(嗅覚)に関すること	8. この中にあてはまるものはない

Q2 以下の中に、あなたが普段から健康維持・病気予防に努めていることはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 歯に関すること	5. 皮膚に関すること
2. 目(視覚)に関すること	6. 足腰(歩行や動作)に関すること
3. 耳(聴覚)に関すること	7. 物忘れに関すること
4. 鼻(嗅覚)に関すること	8. この中にあてはまるものはない

Q3 あなたが現在、目について、気になっていることはありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 目が疲れやすい	9. 小さな文字が読みにくい
2. 目がかすむ	10. 視界の一部が見えにくい
3. 目がかゆい	11. モノがゆがんでみえる
4. 目が乾燥する	12. モノが重なってみえる
5. 目が赤くなる	13. 視力が低下している
6. 目やにが出る	14. 目の疲れからくと思われる肩こり・頭痛
7. 目がゴロゴロする	15. その他()
8. 涙が流れてくる、溜まっている	16. 特にない

Q4 最近、目の検査を受けたことはありますか。

1. 半年以内に受けたことがある	4. ここ3年は受けていない
2. 1年以内に受けたことがある	5. 受けたかどうか、覚えていない
3. 3年以内に受けたことがある	

Q4_1 どのような理由で目の検査を受けましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)(Q4で「目の検査を受けたことがある」と回答した人)

1. 目が疲れやすい	10. 視界の一部が見えにくい
2. 目がかすむ	11. モノがゆがんでみえる
3. 目がかゆい	12. モノが重なってみえる
4. 目が乾燥する	13. 視力が低下している
5. 目が赤くなる	14. 目の疲れからくと思われる肩こり・頭痛
6. 目やにが出る	15. 健康診断の中に含まれていた
7. 目がゴロゴロする	16. その他()
8. 涙が流れてくる、溜まっている	17. わからない・覚えていない
9. 小さな文字が読みにくい	

Q5 かかりつけの眼科はありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 定期的に受診する眼科がある
2. 異常を感じたら受診する眼科がある
3. かかりつけの眼科はない

Q6 あなたは、普段眼鏡やコンタクトレンズを使用していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. コンタクトレンズを使用している	4. 遠近両用眼鏡を使用している
2. 遠くを見るための眼鏡を使用している	5. 問題を感じているが使用していない
3. 近くを見るための眼鏡を使用している	6. 何も問題がないので使用していない

Q7 以下の中で、あなたが聞いたことがあるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 白内障	5. 老眼(老視)
2. 緑内障	6. 近視
3. 糖尿病網膜症	7. 遠視
4. 加齢黄斑変性	8. どれも聞いたことはない

Q8 以下の中で、あなたがどんな病気か説明できるものをすべてお選びください。(複数回答)
(Q7 で「聞いたことがある」と回答した人)

1. 白内障	5. 老眼(老視)
2. 緑内障	6. 近視
3. 糖尿病網膜症	7. 遠視
4. 加齢黄斑変性	8. どれも説明できない

Q9 緑内障についてあなたがご存じのことをすべてお選びください。(複数回答)
(Q7 で「2. 緑内障」と回答した人)

1. 視野がだんだん欠けていく病気である	6. 治療には目薬と手術を行う
2. 悪化するまで気づきにくい病気である	7. 手術を行っても失った視野は回復しない
3. 治療方法は眼圧を下げることである	8. その他()
4. 40 歳以上の 5%が緑内障である	9. どれも知らなかった
5. 日本人の失明原因の第 1 位である	

Q10 あなたは、緑内障と診断されたことがありますか。(Q7 で「2. 緑内障」と回答した人)

1. ある	2. ない	3. わからない・答えたくない
-------	-------	-----------------

Q10_1 緑内障の診断を受けたとき、ご自身で症状に気付いていましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)(Q10 で、緑内障と診断されたことが「1. ある」と回答した人)

1. 見えにくい部分が生じていた	4. 何も問題は感じていなかった
2. 視力が低下していた	5. わからない
3. その他()	6. 答えたくない

Q10_2 あなたが、緑内障と診断された眼科を受診した理由として、あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

(Q10_1 で「4. 何も問題は感じていなかった」「5. わからない」と回答した人)

1. 家族に緑内障の人がいるので心配になったから
2. 報道や周囲の話から心配になったから
3. 眼科を受診中に、眼科医に勧められたから
4. 検診(健康診断含む)を受けて問題があると言われたから
5. その他()
6. わからない
7. 答えたくない

Q10_3 緑内障の診断を受けた時期について、あなたの考えに近いものをお選びください。

(Q10 で、緑内障と診断されたことが「1. ある」と回答した人)

1. 遅かったと思う	4. わからない
2. 時期は適切だったと思う	5. 答えたくない
3. 早かったと思う	

Q11 あなたは、眼底検査を受けたことがありますか。

眼底検査は、眩しい光が出る機器や、眼科医が持つ光源で目の奥を調べる検査です。

1. 受けたことがある	2. 受けたことがない	3. わからない
-------------	-------------	----------

Q12 眼底検査はどこで受けましたか。

(Q11 で「1. 受けたことがある」と回答した人)

1. 眼科	3. その他()
2. 健康診断	4. わからない

Q13 あなたは眼底検査に関するテレビ・ラジオ CM やポスターを過去 1 年以内に見たことがありますか。(複数回答)

1. テレビ CM	5. 雑誌広告
2. ラジオ CM	6. ポスター(駅や電車等で)
3. インターネット広告	7. あてはまるものはない
4. 新聞広告	

Q14 以下の眼底検査の特徴のうち、あなたがお存じのものをすべてお選びください。

(複数回答)

1. 網膜や視神経の状態を調べる
2. 緑内障、網膜剥離、加齢黄斑変性などの病気がわかる
3. 糖尿病網膜症(糖尿病の合併症)の有無や程度がわかる
4. 血管を直接観察できるので動脈硬化など、全身の血管状態がわかる
5. 40 歳になったら受けることが望ましい
6. 知っているものはない

眼底検査は、視力検査では発見できない、緑内障や網膜などの病気を発見することができます。

Q15 あなたは、今後、眼底検査を受けたいと思いますか。

1. ぜひ受けたい	4. 受けたくない
2. 受けたい	5. 治療・検査のためにすでに受けた
3. あまり受けたくない	

Q16 あなたは**フレイル**という言葉を知っていますか。

1. 言葉の意味を知っている	2. 聞いたことがある	3. 聞いたことがない
----------------	--------------------	-------------

Q17 あなたは**アイフレイル**という言葉を知っていますか。

1. 言葉の意味を知っている	2. 聞いたことがある	3. 聞いたことがない
----------------	--------------------	-------------

Q18 「アイフレイル」は、病気の手前で「加齢に伴う目の機能低下」です。あなたは、知っていましたか。

1. 知っていた	2. 知らなかった
----------	-----------

「アイフレイル」は、病気の手前で「加齢に伴う目の機能低下」です。

Q19 あなたは、アイフレイルを 10 項目でセルフチェックする「アイフレイルチェックシート」があることを知っていましたか？

1. 知っていた	2. 知らなかった
----------	-----------

Q20 あなたは「アイフレイル」の**セルフチェック**をしたいと思いますか。

1. とても思う	3. あまり思わない
2. やや 思う	4. まったく思わない

Q21 目の検査や治療に対するあなたの考えで最も近いものをお選びください。

1. 目の機能低下の予防になるなら、何も症状がないうちに眼科で検査したい
2. 健康診断や人間ドックに目の検査が含まれていれば、その際に検査したい
3. 目に機能低下を感じたら眼科を受診したい
4. 目の異常を強く感じたら眼科を受診したい
5. 眼科を受診したくない
6. わからない

Q21_1 あなたは前問で【Q1 回答引用】とお答えになりました。その理由としてあてはまるものをすべてお選びください。(複数回答) (Q21 で「3. 目に機能低下を感じたら眼科を受診したい」「4. 目の異常を強く感じたら眼科を受診したい」「5. 眼科を受診したくない」と回答した人)

1. 症状が出てからでは遅いと言われてもピンとこないから
2. どの眼科に行けばよいか、わからないから (Q21「5. 眼科を受診したくない」のみ)
3. 苦痛を伴う検査があると嫌だから
4. 費用がどれくらいかかるのか、わからないから
5. 目の病気は、優先順位が高くないから
6. 面倒だから
7. その他()
8. 特に理由はない

Q22 アイフレイルの検査では、以下のようなことをします。あなたは受けてみたいですか。すでに検査を受けたことがある人は、今後また受けてみたいかをお答えください。

- ・見え方を片目ずつチェックして、見え方に異常がないか確認する
- ・眼圧を測定して、異常がないか確認する
- ・目の精密な検査を行い、異常や衰えがないか確認する

1. ぜひ受けたい	4. 受けたくない
2. どちらかといえば受けたい	5. わからない
3. どちらかといえば受けたくない	

ここでは、次の動画をご覧いただいたうえでお答えください。

※ この動画は音声流れます。

※ 音が出せる環境で回答してください。

※ 必ず音量を ON にして、音声とともにご覧ください。(聞き取りにくい場合は音量を大きくしてください)

※一部機種でミュート設定を有効にしている場合音声が流れなくなる場合がございます。ミュート設定を解除しご覧ください。

※ファイルを再生する準備が完了していますが、画像が表示されない場合がございます。

画面を押して、動画を最後までご覧になってからお答えください。

※動画は場合によっては表示に時間がかかる場合がございます。

※動画中央に再生ボタンが表示されない場合は、同時に開いているブラウザの他のタブを閉じ、しばらく待って再度アクセスいただくか、別のブラウザや端末をお試しください。

※動画終了後に 3 桁の数字を読み上げますので、下記入力欄に No. を入力してください。

<バイアス考慮のため CM 視聴調査は回答者の 5/6(1 万人以内)の聴取とした>

Q23 あなたは今見ていただいた眼底検査に関するテレビ CM をこの調査の前までに見たことがありますか。

1. あった	4. なかった
--------	---------

Q24 あなたは、眼底検査に関するテレビ CM やラジオ CM を見聞きして、定期的に目の検診を受けようと思いましたか。

1. ぜひ受けたい	4. 受けたくない
2. 受けたい	5. 治療・検査のためにすでに受けた
3. あまり受けたくない	